

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になる授業	3
主な方策 成果と課題	<主な方策> ・少人数授業、補充学習、家庭学習の充実 ・主体的・対話的な深い学びの実践 「学び合い授業」の実施 ・全国学調、体力テストの分析と対策 保幼小中連携による学びの確認 <成果> ・授業改善に向けては、①校長の観察・助言 ②全員一回以上の授業公開 ③教育アドバイザーや特別支援Co.の訪問支援 ④教育委員会に依頼してのミニ研修 など、効果的にPDCAが行われている。 ・研修テーマに沿ってすべての授業で言語活動の充実を図ったり、全校でテーマスピーチに取り組んだりしたことで、文をまとめる力、話す力が向上した。 ・「書く力」と家庭学習の充実に向け、予定帳と自主学習ノートを統合した「DAILY STUDY」を作成、配付し取り組みを進めた。 <課題> ・さらに主体的・対話的な深い学びの実現にむけて、研修を深める。	
重点目標 2	さまざまな個性が輝く生徒	3
主な方策 成果と課題	<主な方策> ・外国籍生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障 ・合理的配慮と基礎的環境整備 ・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践 ・さわやかな挨拶の励行と自主性を尊重した部活動の充実 <成果> ・外国人生徒支援委員会と校内特別支援委員会が定例化し、機能的・組織的になった。そのことにより職員間での情報の共有が進み、みんなの共通理解のもと支援を行うことができた。 ・道徳の教科化に向けて、各学年の指導計画の作成や評価について検討した。また、学年公開授業を学期ごとに行い、チームとして授業を計画・実行でき、教育委員会指導主事からの的確な助言と今後に向けての示唆を受けた。 <課題> ・「考え、議論する道徳」をめざし、道徳の授業を深めていく。 ・ワールドの生徒や支援が必要な生徒がより授業に参加しやすい環境づくりや合理的な配慮については、さらに研修すすめる。	
重点目標 3	やりがいを持って生徒と向き合える教職員	3
主な方策 成果と課題	<主な方策> ・家庭訪問、教育相談、個人ノート等、対話を中心に据えた生徒理解の実施 ・豊かな教育環境の整備につとめる教員、事務職員、用務員の協働 ・教職員の健全な心身の維持増進に向けた総勤務時間の縮減 <成果> ・上記の方法により得た生徒情報について、生徒指導委員会で共有し、個別に検討、SCや外部との連携など、組織的に対応できた。 ・市の部活動ガイドラインに沿った本校の活動指導方針を策定し、短時間でより効果的な指導を行うとともに、勤務時間の見直しにつながった。 <課題> ・個別の課題・背景が多様で、中には学校に來られていない生徒がいるのが現実である。教育行政、医療、福祉等関係機関との連携をさらに進め、生徒理解とその手立てを模索していきたい。 ・教職員の働き方改革について、さらに意識を高めて取り組んでいく。	

重点目標 4	チームCHUBU	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 運営協議会（コミュニティスクール）との協働 ▪ 地域中心のスペシャリスト授業、職業体験、福祉学習等の体験的学習の実施 ▪ 保護者、地域、小学生を対象とした学校見学会の充実 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 学校見学会では多くの保護者・地域の方に参加していただき、教育活動に対して概ね高い評価をいただいた。 ▪ 運営協議会委員と生徒のパネルディスカッションを実施し、生徒のキャリア教育につながった。 ▪ 地域、PTAと協働しての活動は中部中の教育活動に根付いており、生き生きと活動する生徒の姿から地域もその意義を感じてくれている。 ▪ 学校ホームページの更新頻度を高め、情報発信につとめることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ より多くの地域協力者の参画に向けて、保護者や地域のニーズを把握したうえで、内容を充実させていく必要がある。 	

2 改善方針

- ・今年度の研修主題を継承しつつ、さらに主体的・対話的な深い学び、「考え、議論する道徳」、また合理的配慮の実現に向けて、課題を明確にして研修を深める。
- ・不登校生徒については、教職員の共通理解のもと、個別の生徒の課題や背景に応じた対応を図るとともに、教育行政、医療、福祉等の各機関との連携を進めていく。
- ・国際理解教育分野での小中の連携（中部中学校区内の外国人児童生徒の情報交換など）をさらに進める。
- ・コミュニティスクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材を教育活動に活用していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 反復や繰り返しによる基礎的基本的な学習の定着を図ります。</p> <p>2. 少人数のよさを活かし、きめ細かい指導を工夫します。</p> <p>3. 問題解決能力の向上をめざし、アクティブ・ラーニングによる授業づくりをすすめます。</p> <p>4. 家庭学習の取り組みをすすめます。</p> <p>5. 働きやすい職場環境づくりを進め、教職員の自己相互研鑽を深め、教師力の向上を図ります。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業づくりをすすめる際には問題解決能力の向上を目指して5つのプロセスを意識できていた。また、キャリアの視点も含め具体的な指導も考察して実践できた。・朝学習や授業の始めに復習を取り入れ、基礎的な内容の定着に取り組めた。・同じ課題でも、生徒の特性に合わせて個別に指導することによって「わかった」という気持ちを持たせることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・校務分掌、部活動の指導に費やす時間外勤務等の削減を図り、本来のあるべき姿、教材研究や授業の準備に充てる時間の確保が課題である。・取り組みたくなるような家庭学習を用意することができなかった。・目の前の仕事に追われ、他校の公開授業等に自発的に参観することができなかった。	
重点目標2	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 自立に向けて「当たり前のことを当たり前ができる」指導をします。</p> <p>2. 成就感や自己肯定感を高める教育活動を工夫します。</p> <p>3. 社会的・職業的自立に向けた4つの力の向上を意識した教育活動をすすめます。 (4つの力：つながる力、みつめる力、うごく・いかす力、めざす力)</p> <p>4. さまざまな活動を通して豊かな心と健康な体づくりをすすめます。</p> <p>5. 特別支援教育の充実を図ります。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・学調で課題となっていた自己肯定感の低さや夢を持ってない生徒が、「自分の将来を語らせる」取り組みを通して、なりたい仕事ではなく、なりたい人や生き方をを語る事ができたことは成長した証と感じた。・教科指導だけでなく、行事や学校生活の活動において、4つの力を意識した取り組みを行うことができた。・フレンド音楽・フレンド英語で、特別支援学級在籍生徒が、社会に出て必要だと思う内容を考えながら授業をすることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリアの視点で生徒の育成を図るには学年の色合いに左右されず、中学校3年間での視点を強く持つ必要がある。本年度から取り組んでいる4つの力の育成を私たちが3年間で生徒を育てる視点で取り組みを進めていくことが必要である。・手厚い支援を行うには教員の数が足りない。大きな声であいさつや返事をするこ、自分の思いを分かりやすく伝えることなど、社会生活で大切なことが十分できるようになるまで指導できなかった。・クラスの中には支援が必要な生徒が多く、できる限り支援を行っているがまだまだ足りないくらいだと感じる。	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1. 地域人材を活用した教育活動をすすめます。 2. 地域に発信し地域に貢献しようとする態度を育成します。 3. 学びの一体化の取り組みをすすめます。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域が中学生の参加を求めていることをうまく活用して、生徒が地域で活躍する場を設けることができた。また、地域へ目を向けるため生徒会の依頼や学校通信を各家庭に回覧で届けることを始めることができた。 ・小学校への乗り入れが充実した。小学校への乗り入れ授業や、小学校の授業参観、来年度入学予定者による中学校の授業参観などを通じて、来年度入学予定者の様子を知ったり中学校入学に向けての心構えを持たせたりすることができた。 ・実物や本物を見て感じる事が大切、外部講師を招いた教育活動は生徒がキャリアを積んでいくことになったと考える。 ・地域行事への参加を促し、参加した生徒からの情報を全体へ広げることにより、参加生徒が増加傾向となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15の春をどのように迎えていくのかを意識して学びの一体化を進めていきたい、そのためには3年生の学調の結果をこども園・小学校・中学校の教師が共有する必要があると考えている。 ・地区防災訓練など生徒を地区で活躍させる場を社協や防災組織とよく協議して教職員の負担にならないように設定していく必要がある。 ・地域人材についての知識が乏しく、活用がうまくできなかった。また、地域人材の発掘に努力することができなかった。 	

2 改善方針

<p>○小規模校特有の多忙さがあるので、先を見据えた計画を立て、生徒と向き合う時間をより確保できるようにしていく。また、郊外への研修等に積極的に参加できる体制をとっていく。</p> <p>○自己肯定感を高められるような声かけをタイミングよくできるように、全教職員がアンテナを高くし、情報共有を図る。</p> <p>○生徒の支援をより充実させるために、家庭や関係機関等と連携体制をとり、柔軟な対応ができるよう継続して取り組んでいく。</p> <p>○教員数の増加の見込みがない以上、行事や活動を増やすことは避けて、縮小や統合できるところから見直しを図る。</p> <p>○地域の人材発掘については、まずは保護者で特技を持った方がいないか呼びかけて、積極的にゲストティーチャーとして招聘していく。</p> <p>○学びの一体化に関わって、こども園、小学校の公開週間に参加できるような体制をつくっていく。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 港中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	知恵を育む	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 * 学習意欲を高める授業づくり * 実生活と関連づけた授業づくり * 少人数授業等を活用したきめ細かな授業づくり * 自ら進んで学ぶ家庭学習の確立 * 補充学習の充実 2 思考力・判断力・表現力の育成 * 学び合いのある授業づくり * 問題解決能力向上のための授業づくり * 言語活動の充実を図るための授業づくり 3 特別支援教育の推進 * 個に応じた指導の充実 ○めあてと振り返りの徹底 ○学び合いのある授業づくり ○問題解決能力向上のための授業づくり</p> <p>【成果】 ・全教師が毎学期、授業づくりの目標を設定し、指導案を交換して授業を公開したことは意義があった。・四日市モデルを意識して授業に取り組んだことで、授業のねらいやまとめ、より深い学びに導くための効果的な発問の仕方に良い変化が見られた。・全校で統一して「自主学習ノート」を取り入れたことで、進んで学習に取り組む生徒が増えてきた。・外国人生徒支援を含め、特別支援教育について職員で考える時間を確保することができた。</p> <p>【課題】 ・授業づくりに対する意識や学び合い学習の効果的な活用について、教師による差が見られる。・補充学習については、学校として取り組みが不十分である。・外国人生徒に対する学習保障や進路保障、及び学力の2極化への対策が新たな課題となっている。</p>	
<p style="text-align: center;">重点目標 2</p>	<p style="text-align: center;">心を豊かにする</p>	3
<p style="text-align: center;">主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】 1 認め合い高め合う仲間づくり * 学校行事、学年・学級・班活動の充実 * 生徒会活動の充実 * 認め合い高め合う授業づくり * 考え、議論する道徳・人権教育の推進 2 キャリア教育の推進 * あいさつ、清掃活動、みだしなみの定着 * 社会的、職業的自立に向けた力の育成 * 夢や目標を持たせる教育活動の工夫 3 読書活動の推進 * 家庭読書の推進 * 学校図書館活動の充実 ○学校図書館活動の充実 ○生活リズムの確立 ○認め合い高め合う仲間づくり ○達成感や満足感を味わうことができる活動づくり</p> <p>【成果】 ・生徒会を中心にあいさつ運動を充実させ、あいさつの重要性を理解する生徒が増え、それに伴い大きな声ではきはきとあいさつする生徒も増加している。・体育祭で群活動を取り入れ、上級生が下級生をリードして達成感や成就感を持たせたり、上級生が身近な目標や憧れの存在になったりすることができた。・教科学習に関する図書を購入し、授業で紹介するなどして、図書に親しむ機会を増やした。・生徒が他の生徒の前でお気に入りの本の紹介をする取り組みは、より読書に親しむ効果となっている。</p> <p>【課題】 ・身だしなみが整っていない生徒に声をかけ、問題点に気づかせ、生徒自らが律することができるよう指導する体制ができていない。・生徒同士の「距離」や生徒と教師の「距離」が遠いためか、トラブルは少ないが、話し合い活動において本音で語り合う機会が少ないように感じる。・学校や学年の行事に取り組む際、受け身になる生徒が多く、正義を貫き通すような力強いリーダー育成が課題となっている。</p>	

重点目標 3	健やかな心と体をつくる	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 体験活動等を生かした安全教育の充実 * 警察等関係機関と連携した交通安全教育 * 地域と連携した防災教育</p> <p>2 健康と体力の保持増進 * 健康管理を心がける生活習慣の確立 * 食育の推進 * 体育科授業・運動部の活動等での体力づくり</p> <p>3 健やかな心の育成 * 教育相談の充実 * スクールカウンセラーや専門機関との連携 ○ 体育科授業や運動部の活動等での体力づくり</p> <p>【成果】</p> <p>・ 地域の防災訓練に参加する生徒の割合が6割を超えている。この活動を継続することで、地域の担い手となる人材の育成に貢献できるものと期待している。・ 新体力テストの結果を生徒、保護者に周知し、学校全体で課題の共有を図ることができた。・ 保健委員会が中心となり、健康管理について、生徒の意識の向上が見られる。・ 生徒の思いをできるだけ把握するように努め、生徒と様々な話をする事ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・ 体力向上のために、小学校と連携し、体育科授業の中で生徒の実状にあったメニューを継続的に取り入れる必要がある。また、部活動においても、基礎体力向上を図るメニューを考案し、学校全体で取り組む必要がある。・ 課題を持つ生徒に対しては、一人ひとりに寄り添った対応が大切である。今後も支援委員会を機能させると共に、教育相談時間の確保が必要である。</p>	

重点目標 4	“学び舎”をつくるための手段	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 * 学校づくりビジョンの立案・実践への職員の積極的な参画 * 学校自己評価・関係者評価の充実 * 校務分掌の活性化と連携の推進</p> <p>2 教師力の向上 * P D C A サイクルによる研修計画の立案と実践 * 授業の全員公開等・相互参観等による授業改善</p> <p>3 学びの一体化の推進 * 授業参観・乗り入れ授業を通じての子ども達の課題と手立ての共有化</p> <p>4 保護者・地域との協働 * 学校公開・学校HP・各種通信等による積極的な情報発信 * P T A との連携による学校環境整備 * 学校運営協議会との連携による地域行事への積極的な参加</p> <p>【成果】</p> <p>・ 学年主任会や運営委員会等、学校組織改善により、学校運営において活躍する職員が増えた。・ P D C A サイクルを機能させるための改善により、職員の次年度への準備意識が高まった。・ 学びの一体化の組織を見直し、分科会を位置づけることにより、次年度の活動への広がりが見られた。・ 学校HPを日々更新し、学校の教育活動や生徒の取り組みの様子を保護者や地域の方々に知ってもらうことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・ 学校運営協議会の意義や役割について、職員が十分理解していない状況が見られる。また、地域行事への職員の参加が不十分で、地域と共にある学校づくりという点で課題である。・ 学校づくりビジョンを達成するために、校務分掌を学校づくりビジョンと連動させることで、職員の積極的な活動を促す必要がある。</p>	

2 改善方針

- ・ 学校づくりビジョンをより周知させ、その達成のための具体的方策や内容を重点ごとに明確にすることで、ビジョン達成のための学校教育活動を充実させる。
- ・ 職員の情報交換をより密にし、情報連携を高めると共に、各種委員会の行動連携を図っていく。
- ・ P T A 役員選出方法を改善し、保護者、職員の P T A 活動への理解と協力を図る。
- ・ 地域とともにある学校をめざし、学校運営協議会と職員の連携を高めていく。
- ・ 地域の学校の管理職がこれまで以上に連携し、途切れのない学びの一体化の実現を目指していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上…知	4
主な方策 成果と課題	<p><基礎的・基本的な力の定着></p> <ul style="list-style-type: none">・少人数ということもあり、生徒の特性に応じた細やかな指導ができています。・質問日や補充学習日を設定し、学習の補充に努めたが、日程の確保に苦勞をした。・学習習慣の定着が難しい生徒がおり、定期的に学力補充をする日が必要である。 <p><授業の工夫・改善></p> <ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用し、視覚的にも生徒にわかりやすい授業を展開している。・問題解決能力向上の研修を通し、四日市モデルでの授業づくりが定着してきた。 <p><コミュニケーション能力の育成></p> <ul style="list-style-type: none">・個々で考えをまとめ、グループで話し合う場面を設定し、伝えあい聴き合う場を設けた。	
重点目標2	いのちを尊重する教育の創造…徳・体	4
主な方策 成果と課題	<p><道徳・人権教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none">・各学年の道徳・人権学習の取り組みや生徒の様子を共有し、各学年の取り組み状況や生徒の様子がわかる体制がとれた。・道徳の教科化をふまえて、授業日数の確保や年間計画に沿った指導など教員の意識は高まっているが、一方でまだまだ教科化に向けて取り組むべき事柄があるという考えを持ったため、全体として低い評価となった。・夏季研修での外部講師が行う道徳の模擬授業を通し、議論する道徳、教科書を使った授業にいち早く触れることができた。 <p><生き方を探るキャリア教育></p> <ul style="list-style-type: none">・職場体験では、地域に密着し、自分の将来や周りの仕事や今後の中学生生活について考えることができた。 <p><性教育や食育等に関する学習の充実></p> <ul style="list-style-type: none">・各学年ごとに外部講師をまねき食育を行った。2・3年生については、座学だけではなく、調理実習も行った。・保健委員会が中心になり、ヘルスマーケティングを行い、健康に関する学習に取り組んだ。 <p><豊かな人間性の育成></p> <ul style="list-style-type: none">・朝の10分間読書に取り組み、文化委員会や司書の協力のもと、さまざまな本の紹介を行った。・外部講師も活用し、体験を通じた教育活動をすすめることができた。	

重点目標 3	教師力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p><校内の研修の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四日市モデルを意識した授業づくりが教員間に浸透した。新学習指導要領の実施に向け、来年度以降の研修テーマの中にも位置づけるべきである。 <p><保こ小中学びの一体化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からなまづくり部会ができ、さらに一人ひとりを大切にする教育となった。 <p><教育活動の創意・工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修に取り組み、指導体制の整備や指導力の向上をめざした。 	

重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p><校内支援体制の確立><個に応じた教育の実践></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員で協力し指導する体制があり、それが他の生徒にとっても良い影響を与えている。 ・教員が個々の生徒の特性を把握しており、教員間での情報の共有ができていた。 ・少人数であるため、個々の生徒の把握と個に応じた指導はできていたが、目に見える形で人的支援が支援学級籍の生徒が所属する学年に限られていたため、支援体制という点では偏りがあった。 	

重点目標 5	地域の信頼に応える	3
主な方策 成果と課題	<p><自己評価・学校関係者評価実施><情報の発信・受信><地域との連携><学習環境整備の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に対して地域・保護者の参加が多く、必要に応じた協力も得られている。 ・学校での取り組みが、必ずしも保護者に浸透しているとは言えない。 ・学校評価アンケートでは、個々の生徒への対応や授業での等、学校での取り組みが保護者に伝わっておらず、低い評価を受けた部分があった。そのため、学校からの通信を見直し、情報を伝える工夫をする必要がある。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着を目指し、部活休養日を補充学習日として活用する。 ・来年度の道徳の教科化に向けて、授業時数の確保、道徳の教科書の活用、教科書以外の徳目に関する教材の発掘、開発に研修を中心に組み込んでいく。 ・特別支援教育の充実に向けて、支援ファイルの活用をさらに発展させ、支援の必要な生徒の情報の共有を一層進めていく。 ・支援を必要とする生徒の個別の支援計画を教員全体で共有し、理解を深めることにより支援を必要としている生徒に対する指導方策や支援方法を改善していく。 ・学校づくりビジョンの浸透を図るために、具体的方策の共通理解を図り、具体的方策を常に意識した学習活動や学校行事の立案に努める。 ・各校務分掌の年間計画や行事計画にビジョンとの関連を明記していく。
--

自己評価書

四日市市立 山手中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力の向上と指導の充実（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育の視点を取りれた」教育活動を軸として、「生徒同士が関わり合い、学び合いのある授業の創造」や「授業づくり、授業改善」に取り組んだ。 ・「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック活用推進校事業」の委託を受け、教育コンサルタントや指導主事を研修会や授業公開等で招聘し、授業づくりの研修を深めた。 ・特色のある教育活動になるよう、総合的な学習の時間（3W）や「1年防災教室・福祉体験教室・ネットモラル教室」「2年地区防災訓練・安全安心教室」「3年若生会との交流」など多くの地域の方に学校に来ていただき、生徒に直接指導する機会も多く取り入れた。また、地域の新聞店の協力のもと、各クラスに社会の動きに関心を持ってもらうために新聞を配付した。 <p>このような取り組みを行ってきたことにより、「特色ある教育課程の編成」の保護者の評価は、3.3、生徒からの評価は3.4という高い評価を得られた。今後もさらに内容を深め充実させたいと考える。また読書活動の活性化として「朝の読書」を実施している。生徒からは、興味が深まったなど前向きな評価を得ている。今後も司書と連携しつつ図書室の充実を図るとともに、読書活動の充実に努めていきたいと考える。</p> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」や「適切な評価」の保護者・コミュニティースクール運営協議会委員（以下CS）アンケートが教師・生徒に比べ約0.3ポイント下回っている。保護者・CSから寄せられた意見から、まだまだ改善の余地があることを認識した。今後も、わかる授業をめざし、「教職員一人一人が研鑽を深め、工夫・改善すること」を全教職員で確認した。 ・家庭学習の充実がなかなか深まらない。今後も家庭学習の重要性を生徒及び保護者に伝える努力が必要である。 ・クラス数が多く、ICT機器の活用が十分できる環境にないが、授業者が工夫して活用している。 	
重点目標2	心の教育の推進（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導上の問題への対応」については、生徒の評価は3.2、保護者の評価は3.0であった。保護者・生徒とも「概ね十分」という評価を得た。今後も「休み時間廊下等で教職員が生徒の様子を常に見守り、生徒とのふれあいを大事にすること。」「人権教育を含めた道徳教育の充実を進める事。」「Q-Uや教育相談等で生徒の悩みや気になっていることを探り、生徒の内面に迫る生徒指導になるよう教職員同士の情報交換や研鑽を続けていくこと」が必要である。また保護者との連絡・相談等の連携をきめ細かく行っていく必要がある。 ・「充実した学校生活」については、保護者・生徒ともに3.4と高い評価を得ている。朝から校長を筆頭に、生徒とあいさつを交わしたり廊下などですれ違った時も教師、生徒共々挨拶をする雰囲気がある。あいさつから始まるコミュニケーションが上手くいっている事もこの結果につながっていると考えられる。 ・「自立した社会性の育成」は教師・生徒とも3.4と高い評価であった。あいさつや言葉遣い等日々の言動、指導の成果が出てきていると考えられる。また、生徒指導上の問題が起きた時、できるだけ早く複数の教職員が対応し、事態の把握に努めたこと、個人情報に配慮しながら、全校生徒に正しい情報を発信し、どのように行動したら良いのか等規範意識の向上を目指している。このような取り組みも高い評価につながっていると考えられる。 ・「部活動の充実」に関しては、昨年度並みの評価であった。本年度部活動ガイドラインの策定があり、生徒・保護者にガイドラインの理解を得られるよう情報を発信した。活動の質や量を工夫し短い時間で充実できるよう教員が努力した成果である。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの希望者が増えてきており、適切な時期にカウンセリングができないことがある。 	

重点目標 3	健康・安全教育の徹底（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体力の向上・健康管理」の評価が生徒・CSとも3.4以上と高い評価となっている。これについては、例えば、基礎的な生活習慣の確立（時間を守る・清掃にとりくむ）、家庭科の授業（栄養教諭と連携した食育等）、体力テストの結果に基づいた保健体育科や部活動の指導が生徒に伝わっている成果だと考えられる。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校施設・設備の環境整備、有効活用」の評価は、校舎が立てられてから年数がたち老朽化が著しいためか、保護者・生徒・教師・CSとも3.0を下回っている。市に修繕・設備要望をしているが、整備や修繕に日々対応しているのが現実である。 ・交通安全の面については、幸いなことに大きな事故はないが、自転車の通学生徒と車の接触等事故は毎年数件起きている。また地域からは、登下校時のマナーについて指摘を頂くこともあった。その都度、学級や地区別、全校集会を通して、生徒たちに交通ルールやマナーについてより深く考える指導を行うとともに、阿倉川交番や四日市北警察署との連携を進めている。 ・携帯電話やスマートフォンの所持率が山手中では75%近くあり、ネット依存の可能性がある生徒もいる。外部講師を招きネットの使い方や危険についての講演を行ったり、学校ホームページや授業でもネットの使い方や注意点についての指導を継続したりしているものの、SNSに関するトラブルは後を絶たない。またPTA家庭教育講座での啓発を今後も継続的に行っていく必要がある。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者や地域の人たちとの連携」の項目が教員・生徒・保護者が3.2以上という評価でありCSは3.8の高評価であった。これもひとえに、普段の学校が地域にむけて情報発信や「地域への誇りや郷土愛を深める」活動（PTA活動の親子除草作業や大縄跳び大会、万古祭り補導等）や地域の人との活動（クリーン大作戦、総合的な学習）の成果だと考えられる。このような活動が行える事も山手中学校の強みの一つである。 ・「学校からの情報発信の努力」は昨年度と同様高い評価であった。今後もより多くの情報を保護者・地域にむけて発信していくように努力していく。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域との協働の活動は多く、本校の教育活動に果たしてきた役割は非常に大きい。しかし、保護者・教職員の負担という面を考えると、それぞれの「活動の成果と検証」「見直し」をしていく時期でもある。 	

重点目標 5	教師の専門性と資質の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック活用推進協力事業」の委託をうけて、教育コンサルタントや指導主事を招聘し、研究授業や授業づくりの研修を深めることで、日常的に「5つのプロセス」や「学び合い」等を意識した授業づくりに取り組んだ。 ・「授業公開週間」を設け、教職員が授業を見あい、互いにアドバイスを言い合う研修スタイルが出来た。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の指導力の育成（生徒指導面や教科指導面）を普段から行う必要がある。 ・「勤務時間の縮減」を意識しながら、質を保ちつつ、会議の精選と充実を各自・各分掌で行う必要がある。 	

2 改善方針

<p>・学校づくりビジョンに示す目標が達成できるようにする。それぞれの教育活動への取組内容の充実や精選、向上を図る。</p> <p>①組織として円滑に機能するよう情報共有を密に行う</p> <p>②校内研修の更なる充実</p> <p>③人権学習を含めた道徳教育の充実</p> <p>④避難訓練・交通安全指導・不審者対応、SNSのトラブル等、危機管理意識の向上と保護者との連携</p> <p>⑤勤務時間縮減に向けた行事の精選と仕事内容の見直し</p> <p>そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士のコミュニケーションの深まりや相談・報告・連絡を密にし個に応じた指導を行う。 ・部活動や交通安全意識等、保護者の理解を得なければいけない項目について、通信や学校ホームページによる情報発信だけでなく、懇談や家庭訪問等でさらに保護者との距離を縮めるような取り組みを進める。 ・勤務内容や仕事内容など勤務時間のあり方についてしっかりと考え行動に移す必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>〈学びの協働体づくり、学び合う授業づくり〉 聴き合い、学び合うかかわりを大切にし、一人一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業をつくります。 教師の授業力の向上と生徒の学力向上、「学びの一体化」の取り組みの充実</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会を充実させ、教師の授業力の向上を図ります。 ○ 中学校区「学びの一体化」の取り組みの充実を図ります。 ○ 少人数教育、ティームティーチングを充実させ、生徒の学習意欲とともに学力の向上を図ります。 <p>・授業づくりに関して、「ねらい」「ふりかえり」の視点に、今年度も昨年度に引き続き「四日市モデル」の視点を加え、議論する場を設けることができた。</p> <p>・来年度教科化される道徳について、授業研究をし、教材研究や評価について研修を行うことができた。</p> <p>・チャレンジ週間（授業公開週間）を学期に1回設け、相互の授業を参観し合うことで、自分の実践を振り返る機会とすることができた。</p> <p>・校内アンケートでは、「授業はわかりやすいか」「教え合い、聴き合いをしているか」の問いに生徒・保護者とも9割近くが満足と答えており、これまでの取り組みの成果だといえる。今後、さらに取り組みを充実させるために、小グループやコの字隊形の活用に加え、さまざまな手法について研修を深めていく。</p> <p>・「学びの一体化」では、担当者会を適宜持ち、各校園の取り組みの交流や生徒の情報共有を行うことができた。来年度に向け、年間の取り組みを見直し、さらなる改善につなげていく。</p> <p>・「学びの一体化」ベーシック学習や朝の読書に関する取り組みについて、その意義を認識できていない生徒や保護者の方もいる。</p>	
重点目標 2	<p>〈ケアリング、仲間づくり〉 生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い、気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育てます。 信頼関係の構築、自尊心、自己有用感の育成、心の豊かさの向上</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図ります。 ○ 温かみのある生徒指導に取り組み、問題行動の予防を図ります。 ○ 自分を大切にし、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験的活動の充実を図ります。 ○ 生徒会活動を通して、気持ちを理解し合える人間関係を育みます。 <p>・毎朝、生徒昇降口に職員が立ち、あいさつ運動を通して、生徒の様子を確認する取り組みを行った。</p> <p>・人権に関わる学習については、ゲストティーチャーを招いての講演会などを通して、当事者や様々な立場の人の思いを知ること、子どもたちが自分自身を振り返り、これからどうしていくべきかを考える機会を多くもつことができた。</p> <p>・総合的な学習や人権教育、キャリア教育などにおいて、3年間を見通し、より生徒の実情に応じたものに発展させ、教育的効果を高めるとともに、家庭とともに考えることができるようにしていく必要がある。</p> <p>・ほっと情報で各学年の生徒情報を共有し、不登校等生徒へのアプローチや初期対応も全職員が柔軟に行えるような体制になっている。そして、担任だけでなく、学年担当、部活担当など多方向から生徒のがんばりを捉えて、適切な評価メッセージ（プラスの声かけ）を伝えることができています。</p> <p>・柔らかな対応や個に応じた対応の面で、十分でないと感じている生徒や保護者もいる。</p>	

重点目標 3	<p>〈開かれた学校づくり〉 学校内外で開かれた教育活動に取り組みます。 生徒・保護者・学校の相互理解</p>	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育活動を、いつでも誰にでも公開します。 ○ 地域(人材、歴史、文化、産業等)を学習の舞台として活用します。 ○ 生徒会活動の活性化を図り、自主活動、体験的活動を支援し充実させます。 ○ 部活動を通して、人間形成を図ります。 <p>・避難訓練や炊き出し訓練、防災行事等、地域とともに防災について学ぶ機会を多く持つことができている。コミュニティスクールの指定も受け、職場体験やボランティア活動等地域へ出での活動も行っている。校内アンケートの「地域の活動に楽しく参加できているか」の問いに関しても、9割以上の生徒が満足していると答えており、充実した取り組みになっていることがわかる。</p> <p>・全職員協力のもと、学校行事ごとなどタイムリーなHPの更新や、通信の発行を心がけることができた。保護者アンケートの結果も昨年に引き続き高い肯定的評価となっている。</p> <p>・部活動ガイドラインに従って、休養日を確保し、生徒の健全な心身の成長や部活動の充実に努めることができた。ただ、保護者のアンケートからは、部活動の指導について十分でないと感じている方もいることがわかる。</p>	

2 改善方針

<p>・今後も、研修会等で授業における「ねらい」と「ふりかえり」について職員同士が議論する場を設定し、「四日市モデル」の研修もさらに進めていく。</p> <p>・小グループ、コの字隊形などを今後も活用しつつ、ICT機器や教具を用いるなど、より効果的な活用方法について研究授業等で研修を深めていく。</p> <p>・道徳について、教材開発や評価についての研修を重ね、生徒の実状に応じた、より効果的な実践を考えていく。</p> <p>・「学びの一体化」においては、各校園の実態を共有し、意見交換することで、子どもたちの豊かな成長をさらに育むことができるよう取り組みを模索していく。「ベーシック学習」「朝の読書」についてもその意義を繰り返し啓発し、意義を理解して取り組めるようにし、学力向上につなげていきたい。</p> <p>・今後も継続して、朝のあいさつ運動を全職員で行っていく。あわせてほっと情報を活用し、全職員で生徒情報の共有に努める。柔らかな関わりについてはさらに個に応じた対応ができるよう、生徒をしっかり見守り、方向性を全職員で検討し、丁寧に関わっていく。</p> <p>・総合的な学習や人権教育、キャリア教育は3年間の見通しをもち、学年間で取り組みを交流する機会をもつなど、より効果的な取り組みを考えていく。これらについても、その取り組みと意義について丁寧に発信して、家庭とともに生徒を育てるようしていきたい。</p> <p>・今後も防災訓練など地域に出て子どもたちが活動する取り組みや地域人材を活用した学習を積極的に進めていく。</p> <p>・部活動について、ガイドラインに沿って十分な休養日を確保するとともに、ミーティングなどをおして、生徒の自立を促していく。その中で、より充実した活動となるよう取り組んでいきたい。</p>
--

自己評価書

四日市市立 富田中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生きる力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1 基礎学力の定着と問題解決能力を育む教育を実践します。</p> <p><主な方策> 「問題解決能力の育成のための授業づくり」「自分化宣言」「富中タイム」「縮約と感想」「特別支援教育の充実」「読書活動の推進」「家庭との連携」</p> <p><成果と課題> 生徒アンケート「先生たちは授業をていねいにわかりやすく教えてくださいませんか？」で96%の肯定的な回答があり、NRTからも基礎学力が定着している生徒が多かった。小学校と連携して「縮約と感想」に4年継続して取り組み、表現することで深く学ぶ力をつけたり、特別支援教育の視点を授業に取り入れ学習への躓きを減らしたりしたことが成果につながっている。課題は、問題解決能力を育成するために主体的・対話的に学ぶ場面を充実させることである。</p> <p>2 体験活動を活かし、道徳的実践力と豊かな人間関係を育む取組を充実させます。</p> <p><主な方策> 「生活規律の指導」「学級活動・道徳教育・人権教育の充実」「学校行事の充実」「キャリア教育の充実」「自尊感情を高める取組み」</p> <p><成果と課題> 生徒アンケート「学校の規則を守る」で97%が肯定的に回答した。「グローイングアップ事業」で講演会を行う等、自尊感情の育成に努めた。校内人権学習発表会で発表を聴き合う場を全校で設定し、人権の大切さについて共有した。課題は、少数であっても自尊感情や人権意識の低い生徒をなくしていくこと。また、道徳について3年間を見据えた指導計画を充実させ、取り組んでいく必要がある。</p> <p>3 生活リズムや食生活・運動量を見直し、健康な心と体の育成を図ります。</p> <p><主な方策> 「食育と生活リズム推進の啓発」「保健体育授業の充実」「スクールカウンセラーとの連携」「教育相談の充実」</p> <p><成果と課題> 生活習慣アンケートを実施し、結果を基に養護教諭による啓発、栄養教諭による「食育と生活リズムについて」授業を行った。この成果として、生徒アンケート「毎朝朝食を食べている」(96%)と高く、8時間以上の睡眠を取っている生徒(35%)も増えてきた。教育相談やQ U調査における生徒の困り感や食育・睡眠に関する内容にも触れ、個別に指導するように努めた。保健体育の授業で毎時行っているリズム体操で運動量が増え、体力向上につながった。今後は、更に望ましい生活習慣や体力が定着するよう取り組む。</p>	
重点目標2	開かれた学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>1 学校の教育活動を積極的に発信するとともに公開します。</p> <p><主な方策> 「授業・行事等の公開」「通信の発行」「HPの更新」「授業への学習支援ボランティアの参画」「家庭での読書の呼びかけと協力要請」</p> <p><成果と課題> 校内に参観受付を設置し名札とアンケート用紙を常備した。より正確な来校者数を把握し温かいご意見を受け取ることができた。学校通信や学年通信等を定期的に発行し教育活動の意義を家庭と共有することができた。HPの更新を積極的に行い多くの教育活動の閲覧を得ている。一方で、公開に関する案内文書を計画的に発行できなかったことが課題。</p> <p>2 家庭・地域と連携した取組を推進します。</p> <p><主な方策> 「炊き出し訓練」「和楽器の学習支援」「学校支援員・図書館支援員等による学校教育活動への参画の継続」「中学生と語る富田の未来」</p> <p><成果と課題> 地域の方と2年生で炊き出し訓練を行い、避難時に中学生が役割を担うことができる取組を継続して実施。各分野において連携できる教育活動の継続。「中学生と語る富田の未来」へ参画で、地域の課題を自分事として考えることができた。取組によっては、目的が曖昧になっていることが課題。</p>	

重点目標 3	安全・安心な学習環境	3
主な方策	<p>1 危機管理の体制を実効力のあるものとします。</p> <p><主な方策> 「危機管理マニュアルの作成」「避難訓練の実施」「防災教室の実施」「安全教室」「交通安全指導」</p> <p><成果と課題> 校区を実際に歩き大地震後の津波から非難する場所を検討し北警察署に変更した。避難訓練では4分前後で全校生徒が避難。安全教室や交通安全指導を継続して行ったことで生徒の交通事故は起きていない。液状化対策と負傷者を想定した教職員が確実に共通認識できるマニュアルの作成や避難時の行動の改善、自他共に命を大切に作る安全教育の推進が課題。</p>	
成果と課題	<p>2 定期的な設備点検と日々の修繕・美化活動に取り組みます。</p> <p><主な方策> 「安全点検の日常化」「整理整頓の徹底」</p> <p><成果と課題> 破損個所については迅速に修繕を行った。教室のワックスがけを年1回から3回に増やし、廊下も年1回かけていくことに改善。委員会活動で教室棟西の花壇に植物を植え、トイレに花を飾った。日常的に安全確認を行っているが、定期的な設備点検については、徹底できていないことが課題。</p>	

2 改善方針

【重点目標1】生きる力の向上

- 基礎学力の定着と問題解決能力を育む教育を実践します。
 - 授業公開等での他者の意見から、自身の授業を客観的に見つめ直し、子どもたちが「主体的・対話的」に学べるよう、発問や展開を工夫し、授業改善を促進させる。
 - 学習習慣の定着に向けて学校だけで取り組むのではなく、家庭としっかりと連携し、具体的な学習方法等について、教師、子ども、家庭で一緒に考え取り組む。
 - 特別支援教育の視点をすべての教育活動に活かし、子どもたちの困り感に寄り添い、適切な指導や支援を行っていく。
- 体験活動を活かし、道徳的実践力と豊かな人間関係を育む取組を充実させます。
 - 目的や教科指導との関連を明確にし、子どもの成長段階に応じた具体的な計画を立案し、実のある学校行事や体験活動、キャリア教育等を実践する。
 - 規律ある生活の重要性について、子どもたち自身に考えさせ、実践力を高める。
 - 道徳は、3年間を見据えた指導計画を確実に立案し、取り組んでいく。
 - 人権意識や自尊感情を行事等の取り組みだけでなく、学校生活全般を通じて高めていけるよう指導していく。
- 生活リズムや食生活・運動量を見直し、健康な心と体の育成を図ります。
 - 望ましい生活習慣が身に付くよう、食育や保健指導を充実させるとともに、各教科の授業や特別活動、部活動等と関連させて取り組んでいく。家庭との連携も推進させる。
 - 確かな体力が身に付くよう、保健体育の授業における常時活動を継続するとともに、学校行事や部活動と関連させて指導していく。

【重点目標2】開かれた学校

- 学校の教育活動を積極的に発信するとともに公開します。
 - 授業・行事等の公開について、早い時期より丁寧な周知を行っていく。
 - 教育活動の発信を継続するとともに、保護者や地域の意見や考えを聞く機会を設ける。
- 家庭・地域と連携した取組を推進します。
 - 地域の方を招聘するだけでなく、地域の行事等に積極的に参画していく。
 - 保護者や地域の方と協働して取り組む活動を充実させていく。
 - 各取組の目的や意義を再確認し、子どもにとっても地域にとっても有意義な活動にする。

【重点目標3】安全・安心な学習環境

- 危機管理の体制を実効力のあるものとします。
 - 有事に実効性のあるマニュアルを作成し、全教職員と子どもとで共通認識を図る。
 - 自他共に命を大切に作る安全教育を徹底し、有事に適切な行動ができるよう指導する。
- 定期的な設備点検と日々の修繕・美化活動に取り組みます。
 - 定期的な安全点検を徹底し、常に安全・安心な学習環境を確保する。
 - 通常の清掃活動において主体的に取り組めるように指導する。また、教職員や子どもたちが日常的に美化について意識できるようにする。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	基本的な生活習慣の確立	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>(主な方策) ①基本的な生活習慣の確立 ②社会規範や集団生活のルールの育成 ③日常活動での指導の充実と非行や問題行動への適切な対応</p> <p>(成果) ・「笹ルール」の提示と徹底により学習規律は確立されている。また、朝のあいさつ運動や交通安全指導も生徒会やPTAを中心とした取り組みになっており、地域住民との交流にもなっている。 ・健康集会を開催し、生徒がやり遂げたという充足感を持たせることができた。</p> <p>(課題) ・生徒・保護者との心のつながりをさらに強化し、温かみを持った生徒指導を心がけていくことが必要。 ・校外活動を通して、生徒の態度等での批判は少ない反面、応援の言葉がけも限られている。学校内だけでなく地域への働きかけも取り入れることを考えていく必要がある。 ・不登校生徒へのきめ細やかな対応。</p>	
重点目標 2	確かな学力の向上	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>(主な方策) ①授業の充実、適切な評価の実施と説明 ②学力補充 ③学びの一体化の推進（2年次）</p> <p>(成果) ・すべての教科でICT機器導入した授業を行うことができた。 ・基礎学力の定着のための取り組みも着々と進み、ベーシック学習の効果を実感できるようになっている。 ・定期的なアドバイザーや外部教育関係者を活用した授業改善に向けての取り組みを行うことができた。 ・少人数授業、TT、ペア学習、グループ学習等の指導形態・学習形態を取り入れることにより、学力の向上を図ることができた。 ・「みとおす」→「つながる」→「ふりかえる」を四日市モデルとリンクさせることで、指導の幅を広げることに結び付いた。</p> <p>(課題) ・ICTの活用場面と活用の仕方をさらに追及していくことが必要である。 ・四日市モデルをさらに定着させていくこと。 ・学びの一体化における乗り入れ授業の充実を図り、小中間の連携を今後も継続して深めていく。 ・「空間」、「声」、「課題」を意識し共通理解した上での授業改善。</p>	

重点目標 3	心を育てる教育の充実	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>(主な方策) ①計画的な道徳・人権教育の充実 ②心や命を大切にせる教育の推進、不登校生徒支援の充実 ③仲間づくりの充実</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や交流学习の場を利用し、効果的な仲間づくりを推進している。 ・教育相談を年間を通して行い、QU調査等の資料も活用し計画的に実践している。 <p>また週1度スクールカウンセラーも会議に同席してもらうことで、これまで以上に情報共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の伝統ともいえる、西日野にじ学園との交流を行うことで、生徒の内にある課題を再確認することができた。 ・本年度の人権講演会はLGBTについての内容であったが、生徒にとっても理解しやすい講演であった。 ・駅伝大会や新人戦等の行事において、全校をあげて応援できる雰囲気があった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、人権教育については、道徳が教科化されるため、授業研究等の研修を進めることが必要。 ・仲間づくりを日常的に仕掛けていくことが必要であり、授業の中でも学び合いを中心とした取り組みを行っていく。また、「命を大切にせる教育」についてもさらに充実させていきたい。 	

重点目標 4	教師の意識改革	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>(主な方策) ①全教職員の共通理解と協働歩調の徹底 ②一人ひとりを大切にせる指導 ③プロの指導者としての自覚と自己研鑽の推進</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会や特別支援委員会を合同開催することで、「報告・連絡・相談」による早期の情報の共有が身についてきた。 ・授業の面においても、研修を繰り返すことで、個々の授業力向上につながった。 ・少しずつではあるものの勤務時間について考える職員が増え、「教師の働き方改革」に一步踏み込むことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験豊かなベテラン教職員の退職に伴い本校教職員の平均年齢も若返りつつある。今後もこの傾向は続くため、今日的な教育課題に対応できる人材の計画的な育成とベテラン教職員の持つ教育指導に関するノウハウの継承等が急務である。 ・教職員が学校組織の一員としてさらに考え行動し、新たな人事評価を評価の場として捉えるのではなく、改善の場として捉えることができるようになる。 ・勤務時間の縮減。 	

重点目標 5	学校・家庭・地域で育てる教育の推進	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>(主な方策) ①開かれた学校づくりの推進 ②保護者・地域との連携の強化 ③本年度より「四日市版コミュニティスクール」がはじまり、これまで以上に地域で育てる環境づくりを構築する。また、学校関係者評価を実施し地域からの意見を取り上げながら教育計画の検討を行う。</p> <p>(成果) ・予定された授業公開、学年懇談会等を通して多くの保護者に来校してもらえた。保護者に限らず、地域住民の関心を集め、開かれた学校づくりには大きな効果が得られた。 ・学校だより・ホームページの作成・学級だより等でリアルタイムな情報発信に留意し、その都度情報を発信することができた。</p> <p>(課題) ・開かれた学校づくりのための教職員の意識の変革がさらに必要である。学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくこと。 ・コミュニティスクールでは、提供されるばかりではなく、学校も職員も、さらには生徒も資源の一つとして、地域に貢献できる機会を大切にしていけることが必要。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は教育実践研究推進校区指定の2年次ということで、無事公開授業研も終わることができたが、ここをさらなる出発点とし、次期ビジョンの達成に向けて、これまで以上に、授業の充実のための指導法の改善や四日市モデルの定着に取り組んでいきたい。 ・次期学校づくりビジョンへの職員の意見を反映し、それぞれが学校経営に参画しているといった意識を持った上で、策定に臨みたい。また、本年度から始まった四日市版コミュニティスクールのさらなる活動の充実を図っていきたい。 ・見えてきた強みと弱みについて教職員が理解し、「継続する部分」「改善しなければならないところ」「伸長させたいところ」を明確にしたうえで取り組んでいく。 ・「学びの一体化」における校区内の連携をさらに深めながら、中学校区の教職員全員が責任をもって校区内のすべての児童生徒への指導に当たる再確認を図る。 ・特別支援教育の更なる充実と教育的な配慮を必要とする生徒の洗い出しを行い、一人ひとりに視点を当てた教育活動の充実を図る。また、関係諸機関との連携やSC、SSWを最大限に活用し生徒の教育活動に当たりたい。 ・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己肯定感・有用感、自尊感情の高揚、生徒と教師の共感性を大切に、自己実現を目指す取り組みを図る。 ・リアルタイムな情報発信を今後も継続していく。 ・保護者、地域との連携を強化し、教職員の意識改革を同時に行いながら、更なる開かれた学校づくりに努めたい。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 南中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の定着と充実	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>○基礎基本の定着と問題解決能力の向上、コミュニケーション能力の育成 ○学習習慣の確立（授業規律・家庭学習等） ○全国学力学習状況調査やNRT・CRTの分析と活用の工夫 ○わかる授業、楽しい授業づくり、学習意欲を育むICTを活用した教育の充実 ○特別支援教育の充実、進路学習・補充学習の計画的な実施と定着 ○小集団活動を活用した学びあう授業の展開、適切な評価の実施と充実 基礎・基本の定着を目指し、授業でICTやマグネットシートを活用した学び合いによって問題解決能力、コミュニケーション力の育成を図った結果、肯定的な評価は生徒94%、保護者95%であった。年度当初のシラバス、三者懇談で各教科担当のコメント伝達により、適切な評価に関して肯定的な評価は生徒92%、保護者96%であった。進路指導に関して肯定的な評価が、生徒77%、保護者91%で、不安を抱いている生徒が23%と大変多いため、「生きる力」につながるキャリア教育の視点で1年次から計画的な進路指導を充実させ、生徒自らが進路選択できるようにする。不登校生徒については個々に応じた指導を行い、外部機関とも連携して一人ひとりの進路を保障していく。十分な教材研究、授業評価を確実にし、「わかる授業」を展開する。全国学調からも家庭学習の充実が喫緊の課題であるので、家庭学習の手引を作成し、宿題の出し方を工夫する。</p>	
重点目標 2	心の教育の推進	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>○生命や心を大切に、自尊感情を育む人権・同和教育の工夫と実践 ○体験活動等を取り入れた全領域での道徳教育の充実 ○いじめ・差別等を許さない仲間づくり、Q-U等を活用した学級集団づくりの推進 ○毎日の生活の振り返りと改善、読書活動の活性化と充実 ○発達段階に応じたキャリア教育の推進、体験活動の充実、多文化共生教育の充実 教師が業間も生徒のフロアに残り人間関係を構築することや、学期ごとの教育相談で生徒の悩みや思いを知ることにより、いじめやトラブルの未然防止につながった。外国人、障がい者、子どもや女性の人権、そして部落問題に重点を置いて3年間を見通した人権学習を行い心を育てることができた結果、心の教育の充実を感じる生徒は92%、保護者96%、教師94%となった。いじめ・差別に関して対応を素早く行ったため、生徒90%、保護者93%が肯定的な評価となった。しかし100%だった教師の結果とは大きな差があるため、より生徒や保護者に安心感を持ってもらえるように、アンテナをさらに高くして一人ひとりの心の声に耳を傾けていく。</p>	
重点目標 3	健康・安全教育の徹底	4
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>○基本的生活習慣の定着と推進、生徒会及び各委員会活動の活性化と充実 ○清掃活動や部活動、心をつなぐ教育相談、不登校生徒への支援の充実 ○危機管理の徹底と緊急避難訓練の実施、施設、設備、器具の定期点検 ○防災・交通安全教室の開催と充実、通学路、通学区域の安全点検と改善 ○体力向上を図る取り組みや食育、学校保険の充実 先生は親身になって接してくれると感じている生徒が92%で、何らかの不安がある生徒が8%いるため、全員が毎日楽しく過ごすことができる学校生活を目指す。挨拶を重視して指導し、PTAや生徒会でも挨拶運動を行ってきた結果、挨拶の実施に関する肯定的な評価は生徒90%、保護者93%となった。どんな場面でも生徒一人ひとりが自主的に挨拶できるように、さらに教育活動を継続していく。部活動について生徒92%、保護者93%が肯定的な評価であったので、部活動ガイドラインを遵守しつつ、残りの8%の生徒の意欲向上と前向きな活動に向けて取り組みが必要である。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策	<p>○学校づくりビジョンの実践、反省の具現化、学校自己評価の考察と課題の克服 ○全職員の意思統一と各分掌の活性化・連携、健康で意欲的に働ける職場づくり ○保幼小中高での学びの一体化、全教員の授業公開実施、ICT活用 ○各種研修会等への積極的な参加推進と還流、教師力の向上、日常的なOJT </p>	
成果と課題	<p>本校の教育活動について、95%の保護者が満足できる状態だと回答しているが、生徒の10%が学校が楽しくないと感じている。生徒が学びをあきらめることなく授業に前向きに取り組むことができるように研修を重ね、授業改善・指導力向上を目指す。また、教育相談をさらに充実し、保護者やSC、外部機関とも連携することで、生徒が楽しくないと感じる要因を把握し、教職員が組織的に対応して学校教育力の向上を図る。</p>	

重点目標 5	地域・家庭・保護者との信頼関係の確立	4
主な方策	<p>○学校公開・授業参観及びフリー参観等の実施、学校行事の充実と参加協力 ○地域・保護者等の要望意見の情報収集と改善、学校づくり協力者会議等との連携 ○家庭訪問の充実による信頼の構築、地域資源を活用した教育の推進 ○PTA活動・地域活動及び奉仕活動等の協力と推進、学年懇談会等の充実 ○学校通信、学年だより等の発信、ホームページ、すぐメール等の充実と活用 </p>	
成果と課題	<p>家庭と学校との連携が大切だが、前年度同様、生徒の16%が学校・教師からの発信を保護者に伝えていないため、情報伝達の重要性を指導する必要がある。開かれた学校づくりの推進では、肯定的な回答が教師95%、保護者97%となっている。フリー参観、合唱コンクール公開リハーサル、体育祭、文化祭に多くの保護者や地域の方々、園児等の来校があった。また、部活動の一環としての地域行事やボランティア活動への参加も、本校教育活動の成果を見てもらう機会になった。地域とともにある学校として、今後も地域に根差した学校づくりを進めていく。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて・ねらい」「振り返り活動」が明確でマグネットシート（ホワイトボード）を使った学び合いの授業づくりを引き続き行い、「問題解決能力向上のための5つのプロセス」を意識した学習活動をより推進して生徒の学力向上を目指していく。 ・問題行動の背景や個々の生徒の状況を把握したうえで生徒指導委員会の提案をもとに「チーム南中」として一枚岩での引き続き指導していくことで、生徒の自治能力を向上させて守りから攻めの前向きな生徒指導への転換をさらに推進する。 ・日常的なOJTを学年や分掌、委員会などのあらゆる場面で経験の浅い教員に対して行い、学校としての教育力を高めていく。 ・教職員同士の対話を重視し、学校業務アシスタントの方も含め全教職員がやりがいを感じながら日々の教育活動に取り組むことができるようにする。 ・授業改善、教師力向上に向けて各研修会に積極的に参加し、還流報告によって校内研修を活性化させる。 ・全国学力・学習状況調査やNRTの結果を分析し、本校生徒の状況から全教職員で課題を確認して授業改善に活かしていく。学習が苦手な生徒にも、理解できることを一つでも多く増やし、学びをあきらめさせないことで学力の底上げを図る。
--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

<p>重点目標 1</p>	<p>確かな学力の定着 ①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ②言語活動の充実と学び合いを大切にした授業づくりの推進 ③家庭学習に地道に取り組む姿勢の育成</p>	<p>3</p>
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>確かな学力の定着を図るため、学習規律の確立を徹底させた。さらに、「わかる授業に向けた授業改善」「ICT機器の積極的活用」「補充学習」「家庭学習の充実」「少人数授業（TT含む）による指導」「課題解決学習の充実」「言語活動の充実」「共に学びあえる学級集団づくり」「学び合いの授業づくり」「個に応じた指導」を具体的方策として取り組んだ。</p> <p>その結果、本年度の学校アンケートの結果では、「わかる授業」に関する項目では、9割以上の生徒から肯定的な回答を得た。また、教師も全員が「授業改善・工夫を行っている」と回答している。</p> <p>校内研修の充実を図り、教師全員が、生徒がわかる授業づくりや言語活動の充実を目指した。授業の開始と終わりには学習の「めあて」と「振り返り」を明確に示し、ペア学習やグループ活動など多様な学習形態を活用しながら授業を組み立てた。授業の中で、生徒相互が関わるような場面を設定することで、相互に意見を交換したり、考えを深めたりする活動も成果を上げている要因と考えられる。学力定着に向けて、小テストや補充学習、夏季休業中の学習会、TTによる指導が、粘り強く学習する姿勢を身につけさせることに成果を上げている要因と考えられる。</p> <p>本年度は、1・2年で帰学活の前に補充学習の時間を設定し、国語・数学・英語と3年生では、5教科の基礎学力の定着を狙いとした取り組みを行った。</p> <p>保護者との連携を深めチェックシートを活用しながら生活習慣・読書習慣等けじめのある習慣を支援するとともに家庭学習においては、家庭での学習時間を確保するため、宿題の内容やチェックの仕方等についての工夫を考えていく必要がある。</p>	
<p>重点目標 2</p>	<p>主体的に生きる力の育成 ①望ましい勤労観・職業観の育成 ②コミュニケーション能力の育成 ③自主活動の充実 ④社会性の育成</p>	<p>3</p>
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「キャリア教育の充実」「追究活動、体験活動の充実」「話す聞く活動の重視」「学校行事、生徒会活動、学級活動の自主的運営」である。</p> <p>望ましい勤労観・職業観の育成を目指し、職業調べや職場体験学習、高校調べ等、1年生から段階的・系統的に取り組んだ。1年生でドリームマップを作成し、自分の生き方や自分の将来を考える上で、生徒が実感できる有効な教育活動であった。また、2年生に職場体験学習を実施したことにより、社会のルール、マナーを直接体験し、自己の生き方考えるきっかけとなり、「社会性の育成」につながった。さらに、自然教室、修学旅行、社会見学といった体験学習では、集団で行動するときのルールやマナーを身につけさせた。3学期にはようこそ先輩と題し、本校卒業生を招いた講演会を実施し、より身近な生の声を聴く機会を設けることで自分のこととしてとらえる機会となっている。</p> <p>「自主活動の充実」「社会性の育成」では、体育祭や文化祭等の行事において、生徒会や学級のリーダーの育成を進めながら生徒自らが主体的に取り組めるように進めた。体育祭では縦割り種目を取り入れ、生徒主体の活動がより進められた。</p> <p>生徒会・学級活動等、日常のあらゆる活動において、「話す聞く活動」を重視し、「コミュニケーション能力の育成」を図るなど、キャリア教育の視点で、取組をすすめた。その結果、学校自己評価アンケートの「キャリア教育の推進」に関する項目では、生徒は9割強、保護者は8割強の肯定的な回答を得た。今後、このキャリア教育の全体計画を基に、中学校区の小学校と具体的に連携して取り組んでいくことが課題である。</p>	

重点目標 3	<p>豊かな人間性の育成 ①豊かな心の育成 ②確かな人権意識の育成 ③文化・芸術的感性の育成</p>	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「思いやりのある集団づくり」「生徒会、学年、学級活動の充実」「道徳・人権教育の推進」「文化的行事の企画」である。 学校自己評価アンケートの「道徳・人権教育の充実」「仲間づくり」に関する項目では、生徒は約9割、保護者は8割強の肯定的な回答を得た。 「豊かな心の育成」のために、道徳の時間を要として、すべての領域・教育活動において道徳人権教育の充実を図った。「確かな人権意識の確立」に向けては、班・学級を集団の柱とし、常に仲間を意識した生活を指導した。また、授業でも言語活動・コミュニケーションを意識した授業づくりに取り組んだ。この取り組みは、重点目標2-②「コミュニケーション能力の育成」にもつながったと考える。また、本年度は講師を招聘し「命の授業」と題した終末期医療、看取りに関する内容の講演を実施。生命の尊重について深く考える内容となった。 「文化・芸術的感性の育成」では、文化祭において、プロの演奏者サクソフォンの鑑賞、文化部の活動、音楽科、美術科、英語科を中心とした教科指導等、事前指導、事後指導も含めて、生徒の情操面での育成に努めた。 これからも日常生活で触れることのできない文化・芸術に触れる機会を計画的に設けていくことが必要である。</p>	
重点目標 4	<p>自己管理能力の育成 ①安全意識の向上 ②健康管理・体力づくり ③規範意識の向上</p>	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>主な具体的な方策は、「安全意識の向上」「安全教育の充実」「健康管理・体力づくり」「授業規律の確立」「生徒指導の充実」である。 学校自己評価アンケートの「危機管理体制」「生徒指導上の問題への対応」「教育相談」に関する項目では、生徒は9割以上、保護者は8以上の肯定的な回答を得た。 「安全意識の向上」「安全教育の充実」では、交通安全教室、防災教室、安全パトロール等、安全教育の充実を図ってはいるものの、特に生徒自身の交通ルール・自転車運転マナーに関しては、今後も粘り強く取り組みを行っていく必要がある。 防災に関して、1・2学期は通常の避難訓練、3学期にはJアラートを活用した緊急避難訓練を実施した。特に3学期に実施した避難訓練では、屋外に避難するのではなく、屋内で避難体制をとるといった通常の避難訓練とは違う内容で実施した。今後も、繰り返し実施することで、教師の動き、生徒の動きの検証を行い、マニュアルの改善を行っていく必要がある。 「健康管理・体力づくり」は、保健体育科の授業、保健日より、運動部活動などを中心に進めることができた。学校自己評価アンケートの、「部活動の充実」に関する項目では、生徒は9割強、保護者は7割強の肯定的な回答を得たが学校規模（生徒数・教員数）等で考えていくと生徒・保護者の需要に学校現場の供給が追い付いていないのが現状である。「授業規律の確立」「生徒指導の充実」は、学期に1回、教育相談期間を設け、生徒の内面に迫り寄り添う取り組みを行った。また、週に1回、運営委員会、生徒指導委員会、特別支援担当者会（隔週）をそれぞれ開催し、学級や生徒の情報交換を行い、各委員会を有機的につなげ、支援が必要な生徒に対する方策の検討、問題行動に対する迅速な対応を行った。 しかしながら、学校アンケートでは、「教育相談」「部活の充実」の項目の肯定的な評価が、他の項目と比較して低い現状にある。今後、支援を必要とする生徒への早期対処、問題行動の早期発見・早期解決や組織的に対応できる体制づくりに一層努力していく必要がある。</p>	

重点目標 5	教師力の向上 ①教職員の資質・能力の向上 ②情報活用能力の向上 ③校内研修の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>主な具体的な方策は、「教師力向上研修」「分掌組織の連携と組織力向上」「ICTの活用技術の向上」「授業の質の向上」である。</p> <p>学校アンケートでは、全教師が「基礎・基本を明確にし、授業改善・工夫を行っている。」「学習の評価を適切に行っている。」と回答している。</p> <p>教師力向上研修では、個人分析をもとにした、個人目標の設定を行った。その後、管理職からの助言や同僚との相互研鑽を行い、個人目標達成に向けて実践を積み重ねた。</p> <p>わかる授業を実現するために、話し合い活動を中心とした授業改善に向けて、校内研修を行った。校内研修では、講師を招聘し、活用技術の指導を受け、自分の授業に効果的に取り入れることを目標とし、個人公開授業を実施することで職員の相互の話し合いがもたれ、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組んだ。また、教育アドバイザーを活用し、教員が研修を深める機会を設定し、授業の質の向上を図った。</p> <p>職員全員の相互公開授業により、生徒の言語活動を大切にしたい授業づくりについて、教科を越えて、同僚との相互研鑽を深められた。今年度、授業の「ねらい」を明確にした授業改善に取り組めたことは、大きな成果である。</p> <p>また、職員間で日常的に行われている、自身の授業改善に関する情報交換、生徒に関する情報交換等、職場内でのOJTも、学年、教科の枠を越えて活発に行われている。</p> <p>しかしながら、授業や教師の対応に関して、厳しい意見をいただいていることも事実である。今後は、一層教職員の資質・能力の向上を目指した研修を実施し、年度途中に、教師自身や学年、各委員会の取組を学校づくりビジョンに照らし合わせるための研修を設定し、調整を図っていく必要がある。</p>	

重点目標 6	家庭地域との信頼関係の確立 ①家庭・地域との連携 ②開かれた学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>主な具体的な方策は、「地域の催しへの積極的参加」「年間3回の学校公開日の設定」「通信、学校ホームページ等による定期的な情報発信」「保護者との対話の重視」「学校自己評価、学校関係者評価をもとにした改善」である。</p> <p>学校自己評価アンケートでは、「保護者・地域との連携」「情報の発信・受信」に関する項目に対して、生徒・保護者ともに9割弱の肯定的な回答を得た。</p> <p>学校公開日の実施、学校行事等への保護者や地域住民の参加など、開かれた学校づくりへのさまざまな取り組みの成果であると考えられる。</p> <p>今後は、保護者との対話の機会を多く持つようにし、学校ホームページの更新、各種通信の発行等に多くの教員が関わることで、タイムリーな発信が行われるようにしていきたい。</p> <p>また、学校づくり協力者会議を年3回実施し、学校経営に対する学校関係者評価をもとに、来年度の学校づくりに向け、改善の方向を明確にすることができた。</p>	

2 改善方針

<p>☆「学校づくりビジョン」「重点目標及び具体的方策」の実現をめざした実践を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の定着や個に応じた指導をさらに進めるため、きめ細やかな少人数授業やチームティーチング授業を含めた多様な学習形態での授業を行う。 ○ 授業目標を明確にした生徒がわかる授業を実現し、めあてと振り返り活動を実践し、言語活動を充実させるための授業改善を進める。 ○ 指導法や評価について今後も追究し、授業の充実を図る。 ○ 道徳の授業と評価についての研修を行う。 ○ 教師力向上研修や公開授業などを通し、全職員の資質の向上と授業改善に一層取り組む。 ○ 職員の感性を磨き、生徒の心に寄り添った指導の確立をめざす。 ○ 学びの一体化による小学校との連携を深め、共通理解を基盤とした、特別支援教育体制、生徒指導体制の確立をめざす。 ○ 教職員の人権意識を磨く研修をさらに進める。 ○ 危機管理意識を高め、生徒の事故の未然防止を図る指導体制の確立を目指す。 ○ 学校だよりや学年通信の定期的な発行、学校ホームページの更新等、情報発信を積極的に行っていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三滝中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	差別の現実から深く学ぶ人権学習の充実と道徳教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 三滝プランをベースとした出会い学習や体験活動の重視、生徒の実態に応じた学習の工夫及びさまざまな人権課題についての学習の深化と工夫・・・各学年、修学旅行や校外学習において、生徒の実態に応じた講演者を選定した学習に取り組んだ。同和問題を考える土曜活動として、親子人権学習会、講演会、懇談会を行い、保護者と生徒が共に部落問題を考える場として大切な教育活動と位置づけ実施した。人権問題について参加者が考えや意見を交流し学び合う良い機会となっているが、参加者数が少ない事が課題であり啓発活動の在り方を考える必要性が高い。また、特別の教科「道徳」実施に向けて講師を招いた研修や授業参観等を行った。今後も「考える道徳」の実践に向け研修を継続したい。</p> <p>○ 保護者・地域との連携・・・PTA地区委員や役員全員対象の学習会やPTA委員会時のミニ学習会、各地区同和（人権）教育推進協議会主催の啓発地区懇談会や人権フェスタなどに教職員・保護者が参加することにより、自己啓発や他者啓発に努めることができた。また、『一人暮らしの高齢者に色紙を送ろう』の取り組みも定着し、地区社会福祉協議会と連携し地域の方々に親しまれた充実した活動となっている。</p>	
重点目標 2	学力向上システム「MITAKI」と 学びの一体化（キャリア教育）の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 学力向上システムMITAKIの実践・・・家庭学習と授業との連携の意識を強化。授業の振り返りシートを作成。生徒同士のサポート体制を取り入れ、基礎学習で取組み、家庭学習で補完した。結果、授業のめあてが明確となり学習ポイントの定着につながった。</p> <p>○ 放課後補充学習「月スタ」の実施・・・月曜日7限目に全校体制で補充学習を実施し、基礎学力向上に取り組んだ。学校・学年の行事や諸会議等により実施回数が確保できないのが課題。日程の工夫や内容の精選に努力していく。</p> <p>○ 保護者・地域との連携、情報発信の強化・・・保護者や地域住民、コミュニティスクール運営協議会や保護者のメンバーを対象に年6回の授業公開を実施。事後、懇談会を実施しご意見をいただき、新たな気づきや刺激を受けることができた。</p> <p>○ キャリア教育（志授業・学びの一体化）の推進・・・校区の小中学校3校に保育園・幼稚園の教職員を交え、年3回公開研究授業を実施。発達段階に応じた指導の在り方、保幼小中における共通な課題について討議を行った。校区小学校とは、英語（外国語教育）の乗り入れ授業実施。6年生対象中学校入門講座（10講座）を開催。中学生の夏季基礎学習講座に川島小、神前小の教員が参加。子どもへの関わり方や支援の仕方について共有する場とした。また、本年度より川島地区での「子ども未来塾」にて中学生が学習支援活動に関わる事ができた。</p>	
重点目標 3	生徒指導・安全指導の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 登下校指導の徹底・・・登下校時に正門に職員が立ちあいさつを積極的に行っている。安全運転の呼びかけや子どもたちとの関係づくりのきっかけとなっている。</p> <p>○ 学期に一度の定期的な教育相談と日常タイムリーな相談体制の確立・・・生徒の悩みや話したいことを受け止められる場を大事にしてきた。不登校傾向やいじめ等の状況把握、早期発見、早期解決、再発防止に努力している。</p> <p>○ 家庭訪問を通じた保護者・生徒との信頼関係の構築及び各関係機関との連携・・・保護者や生徒との信頼関係づくりに努力している。支援を必要とする生徒の検査や各関係機関との連携を大切し、今後の支援の在り方を多くの職員で考え実践している。</p> <p>○ 自転車通学への見守り指導の強化・・・自転車による通学マナーは、本校の課題の1つ。地域からの苦情は、自転車の乗り方に関するものが多く、自動車との交通事故件数も多い地域の重点危険箇所教師とPTAが連携し登下校指導を行い対策をとっている。安全運転の講演会等学習の場も持ち、啓発に努めている。大きな交通事故はなく件数も減少傾向にある。</p>	

重点目標4	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○「多忙感」を少しでも減らしていくために、校務の効率化を図った。できる限り会議のペーパーレス化を図り作業軽減の効果は見られた。ただ、今後も会議等をより効率よく効果的に行えるような努力を継続し、子どもたちと関わる時間の確保を大切にしていく。</p> <p>○「学び合い・学び続ける教職員集団」を目標に研修会の持ち方を工夫し、子どもの姿から分かることを述べ合うなど考えを言いやすい雰囲気づくりに努力している。ただ、例年、自己評価アンケートにおいて肯定的な回答が少ないことから、研修機会の確保と方法の工夫を継続し、今後も自己相互研鑽に努める。</p>	
重点目標5	学校評価および学校教育活動に ついての情報発信の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 学校評価・学校教育活動の情報発信の工夫と強化・・・保護者・生徒からは、開かれた学校に関する設問に対して、概ね良好な評価。学校HP更新や学校便りを通じた情報発信の継続。コミュニティスクール運営協議会委員への提示と意見聴取。保護者や生徒の学校評価アンケートについては設問の意味を理解してもらうための説明を丁寧に行うことで啓発にもつなげたい。今年度より地域自治会への学校便り配付を開始し、情報発信の教科を図った。</p> <p>○ 学校公開の機会拡充・・・コミュニティスクール運営協議会開催日にオープンスクールを2回実施する等授業公開の定期化を図ることができた。体育大会や三滝祭では多くの保護者地域の方々に参観いただく。アンケートでも行事については高評価であり経年変化においても上昇傾向となっている。平日・休日のバランスも考えながら今後も学校公開を積極的に行っていく。</p>	

2 改善方針

<p>○ 人権・福祉・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への取組の発信に力を注ぎ、より一層、全校生徒の取組として一人ひとりがより実感がわく取組となるよう改善を行う。また、さまざまな分野の方との生徒の交流体験の充実を図る。道徳の教科化を見通し、従来の三滝プランとの兼ね合いを整理し実践していく。 <p>○ 落ち着いた学校生活環境の継続徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援・不登校対策委員会を中心に各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制をより充実させていく。また、クラス会議や生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちで作る意識高揚につなげる。 <p>○ 学力向上の取組・教科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の肯定評価が一層高まるよう指導の充実を図り取組の発信に努める。学力向上システムMITAKIの実践の継続。効果的な個に応じた指導。教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の効果的な活用・充実を図る。 <p>○ 家庭や地域の信頼に応える学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信の強化は責務。コミュニティスクールの立ち上げにより地域行事への積極的な参加が推進された。今後も地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上（知とのつながりを育てる）	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○言語活動、学び合いのある授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合いのある授業を取り入れるため、多くの機会を設けることができた。ペア学習のしやすい環境づくりにより、ペア学習や班活動に生かすことができています。 ・ 各教科「言語活動」の取り組みをさらに進めていく必要があり、学び合いが成立するような生徒同士の「対話的な学び」の場面を多く取り入れる必要がある。 <p>○基礎的、基本的な知識、技能の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「めあて」「振り返り」により、見通しを持って授業に取り組み、その後の課題設定にもつなげることができた。 <p>○「トライやるタイム」で、学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度より、トライやるタイムの意義を生徒や保護者に周知でき、いままでの学習内容をもう一度振り返らせることができるなど基本的な内容の学習の場となっている。 ・ トライの時間の工夫により、低学力生徒にとっても考える時間とできた。 <p>○「自主学習ノート」による学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、1年次から取り入れた「自主学習ノート」により、生徒が家庭学習にたいへん意欲的に取り組めた。今後、保護者の協力を得ながら進めていく必要がある。 <p>○特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門知識をもった外部のアドバイザー等と連携し、委員会を中心にタイムリーで有効な特別支援教育を図れた。 ・ 隔週ではあったが、計画的に支援委員会を開催し、支援の充実に努力できていた。 ・ 特別支援学級担当者と交流学級担当者がさらに連携を深め、共通認識を持って取り組みたい。 	
重点目標 2	豊かな人間性と健康な心身の育成（人とのつながりを育てる）	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修委員会を中心に、学校としてしっかりと進められ、それぞれの学年で成長に応じた内容で道徳授業が進められている。 ・ 昨年度までの2年間で「道徳の授業づくり」研修に取り組んだことをいかしながら、道徳授業が充実できたと同時に日常生活の中でも生徒に道徳的な指導ができるようになった。 <p>○規範意識、自己肯定感の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校としての方向性がしっかり示され、確実に規範意識や自己肯定感の向上が見られるようになってきた。 <p>○不登校の未然防止と改善の取り組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校対策委員会を定期的に開催しており、SCも参加することで、カウンセリングにつなぐ等の対策を考えることができています。 ・ 今年度より、不登校生徒の減少につなげるため、「チャレンジルームの設置」がされ、生徒の表情もよくなった。 <p>○基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校として、スポーツテストの分析を実施し、体育科・部活動を通じて課題となることを伸ばすことができた。 	

重点目標 3	キャリア教育の推進（社会とつながる力を育てる）	3
主な方策 成果と課題	<p>○あいさつ、マナー意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たいへん落ち着いた環境となりつつある。あいさつもしっかりできる生徒が多いように感じる。 ・交通ルールを多くの生徒は守っているが、自転車通学生徒が多いということもあり、交通ルールなどの徹底に困難さを感じることも多い。 ・安全教室など警察機関とも協力しながら、交通マナーの徹底を図っていきたい。 <p>○進路を切り拓く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年さまざまな進路（キャリア教育）を意識した取り組みがなされていた。さらに系統だてた（3年間で）計画が必要となってくると考える。 <p>○修学旅行、自然教室、職場体験学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などで、各学年の取り組みが生かされ、集団としてのまとまりがみられた。 <p>○合唱活動の推進（学級・有志合唱）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志合唱で歌えることは、自己肯定感の向上につながっている。また、地域での活躍の場があり、生徒も意欲的であった。 	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり（社会とのつながりを育てる）	4
主な方策 成果と課題	<p>○地域とつながる学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「御池沼沢」の取り組み（環境学習から草集め作業）により、自分の住む地域のことを知る機会となった。 ・CS委員代表者や地域ボランティアによる「地域子ども教室」を定着させることができた。 ・卒業生なども招聘できた2年次の「プロに聴く」では、さまざまな職種のゲストティーチャーを活用できた。 ・家庭科の保育実習、2年次の職場体験学習は、生徒たちにとって大変貴重な体験となり、得られるものも大きい。 ・学校だよりなど定期的な情報発信がなされ、定期的なホームページのアップもされている。さらに、学校からの情報発信を積極的に行う必要がある。 ・人権フォーラムの開催を幼保や地域人権協にも案内を出すなど地域との連携も視野に入れた取組となりつつある。 ・竹谷川清掃や百人一首大会、あがた綱引き大会への参加など意欲的に取り組めた。 <p>○保護者・PTAとの連携による教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スマホ、携帯の使い方」「親子人権学習」などPTAとの連携した講演会が開催できた。 ・上記の講演会では、保護者の方の参加が少ないのが残念であり今後の課題と考えられる。 	

2 改善方針

<p>・言語活動や学び合いのある授業づくりについては、各教科でグループ学習などを多く取り入れるなどの工夫がなされている。また、家庭学習の定着については、今年度から始めた「自主学习ノート」の取り組みなどの工夫も見られた。さらに学習支援の面では、個々の生徒の特性に応じた課題の出し方や支援の仕方も検討していきたい。</p> <p>・不登校生徒への対策については、「チャレンジルーム」の設置などの取り組みが見られた。さらに外部機関などからの専門的なアドバイスなど未然防止も含めた対策を立てていく必要がある。また、特別な支援を必要とする生徒の増加に対してもSCやSSWなどの活用をより積極的に進めていく必要がある。</p> <p>・社会性を身に付けさせるためにも、相手の気持ちを考えたあいさつの仕方や話し方等についても指導していきたい。</p> <p>・部活動ガイドラインなど「働き方改革」についての見直しについても、保護者への周知などさらに創意工夫する必要がある。</p>

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	和 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「道徳・人権教育の充実」3.6P(生徒)、3.3P(教職員) 「生徒指導上の問題への対応」3.4P(生徒)、3.6P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.4P(生徒)、3.5P(教職員)</p> <p><成果> ○校内の研修計画の重点の一つに、人権・同和教育の視点をふまえた仲間づくりを位置づけたことで、各学年計画的に人権教育・仲間づくりに取り組み、特に生徒の評価ポイントが高い。 ○キャリア教育、進路指導の一環として、社会や進路と学習の関わりについて考えさせる取組から、学習に対する姿勢が育ち、目的や目標を持って学ぶ姿がみられた。 ○各学年「総合的な学習の時間」を中心に体験活動を伴った地域理解・体験及び地域貢献学習に取り組んだことで、生徒たちに地域を愛し大切にできる心情を育むことができた。 ○ベル席の徹底、教室内の整理整頓、服装・頭髪等の身だしなみの指導の徹底をすることで基本的生活習慣の確立に一定の成果をあげることができた。 ○休み時間等生徒と触れ合うことを大切に、全校体制で取り組むことができた。 ○不登校生徒が増加傾向にある中で、教育相談の機会を大切に捉え、カウンセリングマインドにのっとり悩み事を抱えている生徒に寄り添い適切な対応をとることができた。</p> <p><課題> ●各学年とも人権教育推進計画に基づいて人権学習に取り組んだが、教育活動全体の中で実践する教員の意識が弱い。また、生徒は差別はしてはいけないこととわかっているが、日常の言動に結びつかないという事案も見られた。 ●道徳教育については、どの学年も道徳の時間を計画的に運用できていない状況がある。 ●生徒指導について、指導方針は統一しているものの、職員が入れ替わる中で、ここ数年大きな問題行動がないため、情報の共有が遅れたり、指導方法がずれたりすることがあった。 ●生徒個々に耐える能力や困難なことに立ち向かう能力が十分育っていない。 ●朝の読書には、ほぼ全員の生徒が取り組めるものの、家庭読書の習慣が十分身についた生徒が少ない。</p>	
重点目標 2	学 確かな学力の育成～基礎基本の定着と自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「わかる授業」3.4P(生徒)、3.5P(教職員) 「特色ある教育課程の編成」3.4P(生徒)、3.5P(教職員)</p> <p><成果> ○帰り学活で1・2年生は、基礎基本の反復練習を中心とした補充学習、3年生は、進路学習を実施し、学力の向上をはかった。 ○全学年による長期休業中における学習会、定期テスト時の質問日を実施した。また、長期休業中の学習については小学校とも連携できた。 ○校内研修で、「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～をテーマとして、具体的な取組を行い、日々の授業の中で、生徒たちによる“教え合い・学び合い”が定着し、基礎・基本の定着が図られた。また、本校版「授業の型」を意識した研修が4年目となり、教員の「プロセス2」「プロセス5」を意識した授業づくりを目指し、意欲的に取り組む子どもの姿が多く見られた。 ○学びの一体化では、学校公開時の授業参観や小学校3・4・6年生を対象に乗入授業（特に英語）を行った。 ○コミュニティスクールの取組4年目となり、全学年「総合的な学習の時間」を中心に、地域理解・体験及び地域貢献学習を充実させたことで、学ぶ意義を実感する生徒が増え、自主的・主体的に学ぶ姿勢が育まれた。</p> <p><課題> ●「学び合う」授業実践、補充学習や長期休業中の学習会の取組が、生徒の学力向上に十分結びついているかどうかの検証が不十分である。 ●「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～ための授業実践が十分でない。 ●生徒の家庭学習に取り組む時間が全国平均と比べ少ない。 ●学びの一体化では、異校種の相互参観の工夫が必要。</p>	

重点目標 3	鍛 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	4
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「充実した学校生活」3.5P(生徒)、3.3P(教職員) 「部活動の充実」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p><成果> ○体力面では、「体づくり」という観点で体育科を中心に、昨年度に引き続き、準備運動に「リズム体操」を取り入れたり、定期的に「持久走」を行ったりするなど、年間を通して継続的に取り組んでいる。その結果、新体力テストにおいて「瞬発力」、「筋持久力」、「柔軟性」、「俊敏性」、男子の「全身持久力」、「スピード」は、全国平均を大きく上回っており一定の成果をあげている。 ○部活動においては、部活動ガイドラインを順守し、限られた活動時間の中、多くの生徒が熱心に取り組む、複数の部が県大会以上の大会に出場するなど成果を上げている。 ○学びの一体化の「体づくり部会」として保幼小中連携し、特に「持久力」、「柔軟性」を子どもに身に付けさせるよう取り組めた。</p> <p><課題> ●部活動を3年間継続できない生徒が増えている。</p>	

2 改善方針

<p><重点1>「和 豊かな心の育成」</p> <p>①「人権教育」 子どもたちが普段の行動につながるよう、当事者との出会い等の体験的な学習を多く取り入れるなどして、子どもたちの生活に引き寄せて考えられるような指導を行っていききたい。</p> <p>②「道徳教育」 平成31年度教科化に向けて、各学年年間計画の見直しをはかる中で、評価方法も含め、より実効性のある内容にしていく。</p> <p>③「読書活動」 各教科授業での活用を促進するなど、校内での推進はもちろん、地域や外部の力も借りてより一層充実できるようにする。</p> <p>④「安全教育」 地域関係者の協力を得たり、生徒の委員会活動ともリンクさせたりして、登校指導を行ってきたが、今後継続するとともに、関係機関と連携した交通安全教室を計画的に実施し、安全指導をより充実させる。</p> <p><重点2>「学 確かな学力の育成」 今年度、「主体的」に考え、判断できる生徒の育成～個の力を高める～と、人権・同和教育の視点をふまえた「仲間づくり」を研修のテーマとして、日々の授業の中で、仲間づくりを基盤とした「学び合い」の研修を一層深め、一定の成果が得られた。 しかしながら、授業の中で、直ぐに教師や級友に頼ってしまったり、教師の指示を待ってしまったりする生徒の課題が浮き彫りになってきたことから、来年度は、一層、個の力を高めることに焦点を当て、自らが考え・判断し・表現（伝える・行動する）できる生徒個々の能力の育成を重点として研修に取り組む。</p> <p><重点3>「鍛 健康な心身の育成」 保健体育の授業において、新体力テストを実施することで、自分の体力の現状を把握し、更に結果から得られた助言を参考に、各自の目標に向け継続的に努力を促していく。「部活動」においては、引き続き結果至上主義にならないように配慮し、精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていききたい。 「心の健康」については、全校体制による日常の生徒との触れ合いを徹底するとともに、教育相談をはじめ生徒に寄り添う取組を継続する。またスクールカウンセラーや教育相談担当と連携して、見通しをたてて取り組み、自分の心体状況を正しく捉える力、原因を考え自分で対処していく力等を育て、自分の心身をコントロールできるよう関係機関とも連携しながら取組を進めていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『豊かな感性』の育成 平成30年度重点＜気持ちよくあいさつする生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・教員の率先したあいさつ。・授業中、行事等でのあいさつ指導。・登校指導の充実。・マナー教室などを開催し、あいさつの意義、方法の学習。・あいさつを家庭でもするように保護者への啓発。・部活動であいさつの意識を高める。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分からあいさつをする生徒が徐々に増えてきている。・校外での活動（修学旅行、社会見学、自然教室等）においては、意識してあいさつができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・あいさつの必要性、有用性を感じて、あいさつできている生徒はまだ少ない。・普通の授業のあいさつなどは学年が上がるごとに適当になっているように思う。・自主的にあいさつを返せない生徒に対して、自主的にあいさつさせること。	
重点目標 2	『やり切る態度』の育成 平成30年度重点＜ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てる＞	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none">・途中でやめず、放課後なども利用して最後までやり遂げさせる。・身のまわりの整理整頓を毎日呼びかける。・気づいた教師や生徒が朝や休憩時間等いろいろな場面で整頓を呼びかけたり、個別に細やかに指導する。・清掃時に重点的にしてほしいところを確認して取り組ませる。・各行事内における清掃活動や物の扱い方等についても意識して取り組ませる。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・朝の会が始まるまでに色々なところで声掛けをしていくことで、整理整頓が少しずつできる生徒が増えてきた。・掃除を丁寧にする生徒が手本となり、他の生徒も掃除ができるようになってきている。・校外での活動（修学旅行、社会見学、自然教室等）においては、意識して清掃活動や丁寧な物の扱いができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・一部の生徒は掃除をまともにしようとせずにはざぼることもあるので、中学校課程を卒業したときの生活習慣が身に付いていないことが危惧される。・教師1人に対して担当する清掃区域が多く、丁寧な清掃指導ができていないことが実情である。・教師側が指示をする前に、整理整頓、清掃を自主的にできる生徒を増やしたい。	

重点目標 3	『生きぬく基礎』の育成 平成30年度重点<きちんと時間や期限を守り、授業を大切に する生徒を育てる>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の始業前に教師が教室に行って、生徒に声掛けをする。 ・授業時間内に授業を終わらせること。 ・生活委員会の活動を中心にベル席指導や、ベル席コンクールを実施する。 ・学活、学年集会、通信などを利用し、望ましい姿について話をする。 ・校外での活動（修学旅行、社会見学、自然教室等）においても意識して時間を守らせるよう指導する。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ろうとする生徒が増加してきた。 ・移動教室も含めて授業に間に合うように生徒が考え意識できているように見える。 ・授業は大切だと感じ、提出物1つ1つを出せる努力が見られた。 ・校外での活動（修学旅行、社会見学、自然教室等）においては、意識して時間を守ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の授業が延長した場合に、次の授業には少し遅れてもよいと考える生徒の意識。 ・物事の「する」「しない」を成績に関わるかどうかで判断する生徒に対する指導。 ・教師や生活委員から呼びかけしても取り組めない生徒に対する指導。 	

重点目標 4	「信頼される学校づくり」 平成30年度重点<生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てる>	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で保々を紹介することで地域を知る。 ・HPを随時更新して、保護者・地域に対して発信し、つながりを密にとっていく。 ・地域との協力作業（職場体験、保育体験、奉仕作業、学校行事など）を通して、地域への愛着を高める。 ・保幼小中地域との連携（幼中合同避難訓練、保幼小中合同ミニコンサート、防災訓練参加など）やあいさつ運動、交通安全指導を通して、地域の中での自分たちの役割を感じさせる。 ・人権プラザ小牧文化祭や人権まちづくり講座での人権劇の取組を通して地域の人の活動や思い、願いを知る。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験で保々地域の方にお世話になった生徒も多く、愛着の気持ちは高まった。 ・「保々が好き」という生徒が多い。 ・授業で保々地区のことを広める取組をすることで、自分たちの暮らす街を客観的に見られるようになった。 ・プラザ学習参加生徒宅（地区内外）への家庭訪問や懇談会等により保護者の理解が図られ、取組への協力体制が強化された。 ・少数ではあるが、人権劇後にプラザ学習に参加する生徒が増え、プラザ学習参加生徒やその保護者の不安が出ないように取組を進められた。 ・人権まちづくり講座へ積極的啓発活動として人権劇の取組を発表した。 ・幼中合同避難訓練、保幼小中合同ミニコンサートにおいて、上級学年としての役割を果たした。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権劇に参加する生徒はたくさんいたが、依然としてその後のプラザ学習への参加につながる生徒は少ない。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・これまで通り、学校をあげて「あいさつ」「掃除」「時間」の取組を推進する。集会や行事、学級指導などあらゆる機会を通して、その意義などについて考えさせていく。また家庭に向けても啓発していく。 ・行事や委員会活動などを通して、生徒が自主的に取り組めるように投げかけていく。またそれらの活動が安心してできる環境をつくっていく。 ・コミュニティ・スクールの活動や地域での活動を通して、地域の人と会う機会、共に活動する機会を意図的につくる。 ・PTA活動、地域の青少年育成協議会とも協力して活動の推進を図る。 ・地域の防災への取組や地区文化祭への参加など、生徒が積極的に参加できるよう、働きかけていく。 ・教員の指導方針の統一化を図る。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>約9割の生徒が「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」と回答している。全国学力・学習状況調査（3年生）、みえスタディチェックやCRT検査（1・2年生）においても昨年度の各学年の結果を上回る成果となっている。本年度も2・3年生の数学科において少人数学習、英語科においてTT（チームティーチング）を実施し、生徒の学力、及び意欲の向上につながっていると思われる。また、学習支援の取り組みにおいて、生徒の落ち着いた授業への取り組みにつながっている。今後とも生徒の学習状況や学習内容に応じて授業形態を工夫し、基礎基本の定着と学力の向上につなげていきたい。</p> <p>基礎学力の向上にむけてToki10の取り組みは落ち着いて行われているが、さらに充実した取り組みになるよう、内容を検討していくことが課題である。また家庭学習の習慣化のための、Tokiノートの取り組みが定着してきたが、内容等についてはまた改善していくことを考えていきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>豊かな人間性の育成をめざして、道徳・人権教育を学年ごとに取り組んできている。成長段階に見合った取り組み、また3年間の系統だった取り組みになるよう、各学年また学校全体として取り組んでいる。各学年の生徒の状況に合わせながら、3年間の見通しを持った指導になるようにしていくことが大切である。また教師自身も人間性を高めながら、指導に当たる必要性を感じる。今後も生徒の実情を踏まえ教科化される道徳と連携して課題の解決に向けて取り組みを考えていきたい。</p> <p>また朝の読書の時間にも生徒は落ち着いて取り組んでいるが、さらに生徒が読書に興味を持ち、生活が充実していくようにしていきたい。</p> <p>福祉学習、職業体験学習などの総合的な学習に対する生徒・保護者の関心・評価も高く、今後も地域の協力を得ながら、事前指導、事後指導を含め、さらに充実した取り組みにしていきたい。</p>	
重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>始業前に全員が着席をし、落ち着いて授業に臨むことができている。服装については朝の会や始業時に点検しているが、違反者はほとんどいない状況である。毎週木曜日生活委員会を中心に「あいさつ運動」を常磐地区社協青少年部のあいさつ運動と共に行っている。</p> <p>生徒自身も9割以上が規律を守り、落ち着いて授業を受けているという意識を持っている。しかし、年々改善傾向にあるものの、引き続き小さい荒れの兆候を見逃さず指導していくことで、落ち着いた学校生活を継続させていきたい。すべての生徒・保護者は満足していないという現状を踏まえ、毎日のTokiノート、学期ごとの教育相談期間などを通じ、きめ細やかなコミュニケーションを図って生徒の様子を把握に努めている。また担任だけではなく、教科担当、部活動顧問など、職員間のコミュニケーションを密にし、スクールカウンセラーとも連携して生徒理解を心掛けている。</p> <p>生徒指導上の問題が発生した時は、学年全体、学校全体の教職員が問題の解決に向けて連携を図っている。普段の生活の会話や表情の変化を見逃さず、安心できる学校環境作りに向けて、今後も一層努力していきたい。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	3
主な方策 成果と課題	<p>研修テーマ「学力を定着・向上させるための授業づくり」として本年度は問題解決能力向上のための授業（四日市モデル）づくりに取り組んだ。各授業での「めあて」の提示、「ふりかえり」を行うことについて全体で確認をして取り組んでいる。また授業研究の際は、提案授業前の教科部会での熱心な検討で教科の授業の高まりは見られているが、さらに、提案授業を通してお互いの授業の向上を目指して、全体研修会の中で昨年度から「ワールドカフェ」方式を取り入れた。そのため全体研修会では、活発な意見交換ができ、各個人の授業に生かすことができている。また来年度から教科化される道徳に向けての提案授業研修にも取り組み、授業や評価について考えることができた。</p> <p>さらに、校区全体の研修会においても「学びあい」学習の取り組みをテーマとして小中一貫した取り組みを目指している。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>福祉体験学習や職業体験学習を、地域の方と連携して、毎年行っている。生徒がさらに地域と根ざした取り組みであると感じ、将来的に地域に貢献できるような取り組みになるように、地域と教職員の協働による授業をさらに進めていきたいと思う。</p> <p>また、行事や授業公開など、保護者や地域の方が期待をもって参加してもらえるような取組を進めていきたい。</p> <p>学校通信、学年通信、ホームページなどを通じ、学校の様子、学年の状況を発信して信頼関係をさらに築いていきたいと思う。また保護者とは、問題となった時だけではなく、普段から気軽に話し合える関係づくりが必要であると考えている。個別の電話連絡、家庭訪問等によって保護者と連携しながら取り組んでいきたい。</p> <p>また学校自己評価でいただいた保護者からの意見を学校運営に生かしていきたい。</p>	

2 改善方針

<p>本校の生徒指導上の課題の根底には、授業が分からない、授業がおもしろくないなどがある。そこから、遅刻・早退・怠学による欠席などの問題行動につながるものが過去に多くみられた。最近の傾向としては、不登校になっている生徒が多い状況である。生徒をいかに授業に引きつけるかが重要である。基礎学力の定着、わかりやすい授業の実践により、生徒の学習意欲を向上させることが重要であり、それが生徒指導上の課題の改善、また学校が楽しいところと思えることにつながるものと考えている。</p> <p>2・3年生の全ての数学授業で行った習熟度別少人数編制による授業形態や英語科のT・Tの授業を継続することも有効と考える。さらに、教科担任だけではない支援の教師による指導も効果的である。そのために、本校では、より多くの加配教員の活用が不可欠である。</p> <p>また、家庭学習の定着化も重要である。宿題だけでなく、予習復習も大切な学習である。生徒自身が家庭学習の大切さを理解して、家庭での学習習慣が定着するように、家庭と協働してすすめていきたい。本年度から行っている「Tokiノート」が有効に活用されるようにしていきたい。</p> <p>補充学習として毎日行っている「Toki10」については、基礎的な計算や漢字力を身に着けることとして今後も継続して取り組んでいくが、さらに生徒の実情に合った集中して取り組めるものとするよう、内容・教科について検討し改善していく必要がある。</p> <p>生徒指導で大切な「生徒理解の充実」について、引き続き重点的な取り組みとして継続していきたい。問題行動に対しては毅然とした厳しい態度で指導を行いつつ、そうなった原因や要因を見つめ、生徒の内面に迫れる指導を行う必要がある。PTAによって採択された「緊急アピール」に基づいた指導も、保護者の理解を得ながら続けていきたいと考えている。また、落ち着いている今だからこそ、現状に安心せず、教員全員が常に危機感を持ちながら、日々の教育活動を進めていくことが大切である。</p> <p>部活動については、生徒指導上においても豊かな人間性を育成していく上でも重要な教育活動の一つであると考えている。多くの生徒が熱心に活動しており、どのクラブも日頃の練習の成果を発揮し好成績につながっている。しかし、長時間勤務の問題もあり、部活動のあり方や指導方針、活動計画などを検討して、有意義な教育活動としていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	「毎日登校」の取組+「あいさつ・掃除・時間」の取組+キャリア・多文化共生教育の取組	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 「1年間の欠席日数10日未満」の生徒の割合を増やすことを目指して、わかる授業の工夫や生徒が活躍できる場の設定などの指導を重点的に行った。 しかし、目標とした数値には少し及ばない結果となった。生徒にとって、できるだけ学校を休まず授業に真剣に参加することは学校生活の基本であることから、来年度以降も継続的な指導が必要である。</p> <p>(2) 「あいさつ」「掃除」「時間」についての生徒アンケートにおいて、肯定的評価の割合90%以上を目指して、生徒会本部や委員会、学年会議など生徒主体の活動の充実とともに、ふれあい指導や下校指導を継続的に行った。 生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は、それぞれ80%、87%、82%となり、目標とした数値には少し及ばない結果となった。「あいさつ」「掃除」「時間」の指導については、キャリア教育の視点から重要であり、来年度以降も指導の継続が必要である。</p> <p>(3) キャリア・多文化共生教育についての生徒アンケートにおいて、肯定的評価の割合90%以上を目指して、総合的な学習の時間における地域学習の充実や多文化共生サークルや学年、部活単位での地域活動への参加などを行った。 生徒アンケートにおける肯定的評価の割合は89%となり、目標とした数値とほぼ同じ結果となった。来年度から、西笹川中学校区の学びの一体化の目標を「笹川に学び、笹川を愛し、笹川とともに歩む子どもの育成」とすることから、保幼小中で連携してキャリア・多文化共生教育に取り組む必要がある。</p>	

重点目標 2	確かな学力と社会への参画力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 確かな学力の育成 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は95%となり、「本市小中学校平均」（平成27年度全国学力・学習状況調査の本市全小6中3の平均値：四日市市教育委員会『四日市市学校教育白書』による）よりかなり高い結果となった（設問：「学校の授業はわかりやすい」）。教師の肯定的評価の割合も93%と高く、外国につながる生徒を意識した授業の成果ともいえる。逆に保護者の肯定的評価の割合は昨年度より10ポイント低下しており、学力について厳しい見方の結果であるともいえる。今後は、生徒の学力状況について丁寧に保護者に説明するとともに、日常的な授業改善の取り組みを継続することが必要である。</p> <p>(2) 個に応じた指導（日本語指導・支援、特別支援教育）の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は93%と高い結果となった。これは外国につながる生徒や特別な支援を必要とする生徒を意識した授業や取り組みの成果ともいえる。今後も、生徒一人一人に応じた指導・支援の改善に努めることが必要である。</p> <p>(3) キャリア教育の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は77%となり、「本市中学校平均」（本市設問：「将来の夢や目標をもっている」、本校設問：「自分は、将来の夢や目標があり、その実現に向けて自分なりの努力をしている」）よりも数ポイント高い結果となった。今後は、学校の取組を保護者に丁寧に説明し、「将来の夢や目標、就きたい職業や今後の進路」「希望の進路の実現に向けた具体的な努力」「職場体験学習や修学旅行での企業訪問」などについて学校と家庭が連携して指導していく必要がある。</p>	

重点目標 3	豊かな心と「ともに生きる力」の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 多文化共生教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は99%と極めて高い結果となった。本校は外国につながる生徒が全校生徒の約35%を占めており、全教科・全領域において、「多文化共生」を基盤とした教育活動を展開することが使命である。この点について、今後も教員間の共通理解を図るとともに、中学校3年間を見通した系統的なカリキュラムに基づいて継続的な取り組みが必要である。保護者等に対しても、本校の具体的な取り組み、成果と課題等について丁寧な説明が必要である。</p> <p>(2) 道徳教育及び人権教育の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は99%となり、「本市中学校平均」よりも数ポイント高い結果となった（設問：「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」）。また、保護者の肯定的評価の割合も90%と高い。これらに対して、教師の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント低下して85%となった。来年度から「特別の教科道徳」が始まることもあり、今後も道徳や人権教育について、中学校3年間を見通した計画的な指導が必要である。</p> <p>(3) 生徒会、学級活動、学校行事、部活動の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は91%となり、「本市中学校平均」よりも数ポイント低い結果となった（設問：「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」）。現在、どの学年の生徒も、体育祭や文化祭、修学旅行や自然教室、職場体験学習等の諸行事、部活動等において大変意欲的に取り組んでいる。その中で、生徒たちに中学生として必要な自主性、協力性、責任感、ねばり強さ、公共心などを身に付けさせる指導が重要である。</p>	

重点目標 4	健やかな心身の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 生徒指導の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は94%となり、「本市中学校平均」とほぼ同じ結果となった（設問：「自分は、学校のきまり（規則）を守って生活している」）。現在、生徒は大変落ち着いて学校生活を送っており、学力や学校行事等の他領域でも好結果が期待される。今後もこのよい雰囲気継続したい。</p> <p>(2) 教育相談の充実 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント低い結果となった。1、2学期に約1か月の教育相談期間を設定して取り組んでいるが、十分な時間が確保できていない。今後も、思春期を迎えて多くの悩みや不安を抱えた生徒への丁寧な教育相談が必要である。</p> <p>(3) 心と体の健康教育の推進 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合は昨年度より数ポイント上昇した。本校生徒は、スマホ、ケータイの所持率やネット依存率が市内中学生よりやや高いという調査結果もある。今後もスマホ・ケータイ安全教室を継続するとともに、家庭との連携を図りながら規則正しい生活をさせる指導が重要である。</p>	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 地域、保護者との連携（情報の発信と収集、地域行事への参加） 学校評価アンケートにおける生徒の肯定的評価の割合が昨年度より数ポイント低い結果となった。今後も地域とともにある学校づくりの取り組みを充実させ、「笹川地区が好き」「笹川地区に住みたい」と思う生徒を増やしていきたい。</p> <p>(2) 学校教育力の向上 職員の仕事の効率化を図ることで、生徒との関わりの中で教師のやりがいや満足度を高めるとともに、過重労働解消の取り組みを引き続き推進する必要がある。</p> <p>(3) 西笹中校区 学びの一体化の推進 笹川小学校開校に合わせ、中学校区の学びの一体化をさらに推進する必要がある。</p>	

2 改善方針

<p>外国につながる生徒が全校生徒の約35%を占めている状況を「強み」「チャンス」ととらえ、多文化共生教育のモデル校を目指して努力を続けることが重要である。このために、多文化共生教育を基盤としたキャリア教育を継続的に推進する必要がある。特に、「学力の定着・向上のためのJSLカリキュラムによるわかりやすい授業づくり」と「地域と連携したキャリア教育」については、PDCAサイクルによって必要な改善を図りながら系統的・継続的な取り組みが重要である。</p>
--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 三重平中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	自立のためのキャリア教育の推進	4
1. 「わかる」「できる」授業づくりをすすめ、基礎・基本の定着をはかります		
2. 問題解決能力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びによる授業づくりをすすめます		
3. 自立に向けて「当たり前」の事を「当たり前」にできる」指導をします		
4. 夢や志を持てる取り組みをすすめます		
5. 働きやすい職場環境づくりをすすめ、教師力の向上をはかり、指導に活かします		
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師全員が問題解決能力の向上を目指して、5つのプロセスを意識したことで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒が94%と、わかりやすい授業づくりに努めることができた。 ・「あいさつ・そうじ・時間を守ること」など、あたりまえのことがあたりまえにできていると答えた生徒が約98%おり、概ね達成できている。 ・宿題やステップアップノートを使って、毎日、学習しているという生徒が約93%おり、家庭学習が少しずつ定着してきている。 ・「学力向上」の時間は役に立っているという生徒は約88%と概ねよいと思われるが、さらにポイントを絞った展開を検討する必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、主体的・対話的な授業づくりを意識しているものの、生徒の評価は目標をやや下回っており、さらに課題づくりを充実させ、授業改善をすすめたい。 ・「将来の夢や志を持つ」ことに、生徒・保護者ともに評価が低く、「先輩に聞く」や「社会人に聞く」等の取組を通して、将来をイメージさせる活動等を充実させる必要がある。 	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
1. 自尊感情を高め、コミュニケーション力の向上をはかります		
2. 一人一人を大切に、きめ細やかな指導をします		
3. いじめや差別を許さず、互いに認め合い支えあう仲間づくりをすすめます		
4. 「三重平ならではの」特色を活かした教育をすすめます		
5. 心身の健康や安全に関する意識を高めます		
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は安心できる場所と答えた生徒が86%、先生は自分のことをわかってくれていると答えた生徒が約93%おり、教師と生徒の関係が良いことが伺える。 ・いじめや差別は絶対いけないと思うが約96%おり、学校は楽しいと答えた生徒も約88%と、学校が安心できる場所と概ね答えているものの、残る10%の生徒に目をむけていかななくてはならない。 ・「読書活動」「花壇づくり」「伝統文化に親しむ（選択総合）」にすすんで取り組んでいると答えた生徒が90%おり、「三重平ならではの」特色を生かした教育が定着している。 ・規則正しい生活を送り、健康や安全に気を配っていると肯定的に答えた生徒が90%以上おり、基本的な生活習慣が定着している生徒が多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自尊感情向上のための働きかけはしているものの、自分のことが好きと答えた生徒が約69%、自分にはよいところがあると答えた生徒が約80%であり、最重要課題といえる。 	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
1. 学校運営協議会を中心とし、家庭・地域の学校教育への参画をすすめます		
2. 地域の主催事業に積極的に参加します		
3. 積極的に情報発信し、開かれた学校づくりをすすめます		
4. 保幼小の教職員と連携・協働して生徒を育成します		
主な方策	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は保護者や地域の要望や意見を取り入れて連携して生徒の育成に努めていると答えた保護者が94%で、概ね達成できていると思われるが、常に教師は厳しい目で見られていることを忘れてはいけない。 ・学校は笑顔いっぱいの学校にふさわしい活動を行っている肯定的に答えた保護者が93%、三重平中の教育に満足している保護者が90%を超え、学校を信頼して頂いていることが伺えると同時に大変ありがたい。 ・ホームページや通信等、情報を適切に発信していると肯定的に答えた保護者が95%おり、閲覧数も毎日100を超え、目標を達成できているといえる。 	
成果と課題	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や活動に参加していると答えた生徒が約69%とやや消極的な面は否めない。 ・小学校からの学びの接続を意識した授業を行ったと答えた教師は約82%という結果であった。中学校2校を含む、9校園ということもあり、学びの一体化をすすめていく状況であるが、継続的な学びを行っていく必要がある。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・学校づくりビジョン達成に向けて、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等、教職員全員でポイントを確認し合い、キャリア教育の視点に立った教育を常に意識する。 ・生徒は、簡単な話題での話し合いや相談はできるが、根拠をもとに、ある課題について深く考えたり、議論したりすることに課題が残り、さらに授業改善をすすめる必要がある。 ・宿題やステップアップノートを使って、家庭学習が少しずつ定着してきているため、今後も継続活用する。 ・会議の短縮化を図り、子どもと接する時間を増やす。（放課後等の会議は1時間以内とする） ・生徒の支援をより充実させるために、家庭や関係機関等と連携したり、SC、SSWを講師に招いての小中合同研修会を企画したりするなど、教員の共通理解を深め、柔軟な対応ができるようさらに充実させる。 ・自尊心向上のための取組でもある「平っ子タイム」のようなソーシャルスキル・トレーニングを小学校から始められるとよい。 ・スマホ、ケイタイ、パソコン、ゲームの使い方など、ルールを決めていると答えた生徒62%、保護者70%と低く、学校と家庭が連携し、ネット依存防止教育に取り組んでいかなければならない。

自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の視点を大切に学習の推進 キャリアスタンダードの表を用いて、教師間でのキャリア教育観の共有を行い、社会的・職業的に自立しようとする生徒を育成するため、4つの力の育成を意識した教科活動、特別活動に取り組んだ。 日頃の授業において、4つの力を明記したキャリアカードを提示している。公開授業から、他教師のキャリアカード提示方法を学び合い、より良い提示方法を各教師が研究したことにより、以前よりカードを提示しやすくなっている。そのこともあり、教師の4つの力の育成を意識した授業や教育活動ができたと回答した教員が昨年度より31.8ポイントも上昇した。また、羽津中だより・学年通信、行事の講話等でキャリアについて発信してきたことや、今年度の保護者アンケート表記が「きっかけになったか」という言葉になったため、保護者のポイントも昨年度より0.6ポイント上昇した。今後も全教員がキャリア教育の視点で教科活動、特別活動を推進していく。</p> <p>○学び合いの充実と基礎的・基本的な知識の定着 授業のめあてを提示し振り返りをさせることで、学習内容の定着を図っている。ペア・グループでの活動を多く取り入れた授業展開から、課題を自分たちの力で解決していくために、意見を出し合い深め合うことができたと回答した生徒が昨年度より10.6ポイント上昇した。また、小テストの実施から、基本をしっかりとし身につけさせることもできているため、生徒の満足度は昨年度より12.4ポイントも上昇している。今後も引き続き、本時のめあてを提示し、授業のねらいを明確にした授業となるよう改善を図る。</p> <p>○家庭学習の推進 保護者へのアンケート表記が、「お子さんは」から「学校は」に変更になった。保護者は、Daily & Studyの取り組みを知っているために、今年度の評価が昨年度より0.6ポイント上がったと考えられる。Daily & Studyを使っている学習方法を丁寧に指導していることも評価のUPにつながっている。引き続き取り組みを推進したい。</p>	
重点目標2	心を豊かにする羽津らしい活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒主体による規律ある学校生活の推進 生徒会を中心に、各委員会で生徒主体の取り組みを行っている。今年度は教師の入れ替わりが多く、ノーチャイム着席を中心に自分たちで規律を守る雰囲気新しく赴任された先生方に評価され、教師のアンケート結果が上昇したと考えられる。「そうじ・あいさつ・ノーチャイム・服装」を意識した生徒が昨年度より6.1ポイント上昇している。しかし、日頃の活動を見ていると、あいさつができない生徒や掃除をきちんとすることができない生徒もまだまだ多いため、継続した取り組みが必要である。</p> <p>○文化・芸術活動の充実 羽津地区の保幼小中が連携し一堂に集う「山のコンサート」や、「校内合唱コンクール」「生徒会ダンス」を生徒主体の実行委員会を組織し、積極的に取り組むことができた。また、本物の文化・芸術に生徒たちが触れることができるよう、プロの合唱指導者や優秀な吹奏楽団を招き、羽津らしい活動の機会を設けることができた。そのため、生徒や保護者の評価は昨年同様に高い。今後も地域に根付いた伝統ある活動となるよう、生徒・保護者・教師の共通理解のもと、文化・芸術の充実を図りたい。</p> <p>○道徳・人権学習の充実 来年度の道徳の教科化にむけて、教師は計画的に授業を行い、考え議論する道徳の授業実践に心がけることができた。また、評価についての研修も行うことができた。人権学習では、各学年計画にそって取り組めた。生徒のアンケート項目は「いじめや差別は許されないと思うか」から「いじめや差別の解決に向けて考えることができたか」という文章への変更があったため比較はできないが、昨年度より数値が下がっているため、今後も研修を深めていくことが重要である。</p>	

重点目標 3	相互信頼に基づいた生徒指導	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒指導の充実 生徒の情報や生徒指導委員会で話し合われたことなどをメールで発信することにより、他学年や保健室利用状況なども把握することができ、生徒の様子を確認することができた。しかし、生徒指導委員会に上がってきていない事案もあったので、後手に回った部分が課題である。</p> <p>○研修を深め効果的な教育相談の実施 教育相談で先生が親身に話を聞いてくれたと回答した生徒が99.1%に達した。また、保護者の満足度の評価結果も0.2ポイント上がっている。これは、デイリースタディを介してのコミュニケーションが図られていることや、教育相談から、普段聞くことができない話まで聞くことができ、教師が生徒の微細な変化を感じることができているからである。日頃から教師と生徒、家庭との関係が良好であることから、生徒や保護者が先生に話を聞いてもらえたと感じていることが高評価につながったと考えられる。 全生徒への相談機会が確保されている教育相談月間は本校の強みである。今後も、生徒たちの細かな変化を見逃すことがないように、積極的にコミュニケーションを図っていききたい。</p> <p>○不登校対策の推進 数値目標は達成できなかったが、ケース会議の開催やその見直しの実施、時間割内の別室登校枠の活用ができた。3日目シートも、担当だけでなく学年内で回覧し、口頭での情報共有もできたので、休みかけている生徒を放置せず、複数の目で見守り関わることができた。別室登校生徒の教室復帰へのステップアップについては、具体的な方策がなかなか出せなかったことが課題と考える。来年度、さらに情報共有を密に行いたい。 本年度は、自分の学級に居場所があると回答した生徒が96.8%という高い数値になっていることから、生徒にとって居心地のいい学級が作れたと考えることができる。そのことが保護者にも伝わったため、保護者の数値も上がっている。しかし、居場所がないと感じる生徒も依然としていることを考えると、まだまだ改善の余地があり更なる努力をしていく必要がある。</p>	

2 改善方針

<p>重点目標 1 確かな学力の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校活動の全領域で、キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取れる取り組みを推進する。 日々の家庭学習の充実を図り、生徒個々の学習状況を把握し、個に応じた細やかで丁寧な指導から、基礎学力の向上を目指す。 D a i l y & S t u d y の取り組みを充実させ、家庭学習の定着を図る。 <p>重点目標 2 心を豊かにする羽津らしい活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事を含めた学校活動において、生徒が主体的に活動できる取り組みを更に推進する。 外部講師の活用を積極的に行い、生徒たちが本物の文化・芸術に触れることや、保幼小中の連携を深める取り組み等、いろいろな価値観を持ち、さまざまな発想ができる機会を設ける。 学校だよりや学年通信、ホームページを活用して地域や保護者へ日常的な情報発信を行い、地域や保護者と連携した学校づくりを継続する。 道徳授業を充実させるため、積極的に研修に取り組み、教材研究を深める。 <p>重点目標 3 相互信頼に基づいた生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題行動・生徒の情報を敏速に共有したきめ細かな生徒指導を継続する。また、現状に満足せず、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。 保幼小中との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密なものとし、生徒指導や教育相談にあたる。 教育相談や、教師と生徒の信頼関係をより一層充実したものとするために、外部講師を招聘し、生徒理解に対する研修の推進を図る。 不登校生徒の減少に向け、不登校対策委員会やケース会議の充実を図るため、日頃から S C との連携を深めるとともに、効果的な外部機関との連携や不登校生徒へのよりよい支援方法等の研修に積極的に取り組む。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	「学びあいを通して」確かな学力の定着・向上	3
主な方策 成果と課題	<p> 研修委員会が主導して「授業のめあて」の明示、少人数班の活用、授業の振り返りなどの具体的な手立てを示したことで、どの授業においても「学びあい」を意図した学習が行われ、生徒たちは活発に意見交流する場面がみられるようになった。一方で、他者の意見からさらに自分の考えを進め、自ら学びに向かおうとする姿はあまり見られず、「学びあい」が単に意見交流や発表の場にとどまってしまっている現状もあった。適切な課題設定や話し合い活動の進め方などを工夫し、生徒が考えを深め、自らの力で学んでいくことができるよう、さらなる授業改善に取り組む必要がある。 </p> <p> 2年目を迎えた「自主学習ノート」の取り組みは、生徒の中で定着してきており、自分なりに工夫して学習に取り組む生徒が増えてきた。また、休日も含めて継続的な家庭学習を進めることができる生徒が多くなってきた。しかし、依然として家庭学習が定着していない生徒もあり、これらの生徒に対していかにして学力補充を行い、自主的な学習を進める力をつけていくかが課題である。 </p> <p> 「学びたいむ」は年間14回の実施であったが、生徒はまじめに学習に取り組むことができ、担当教員に質問をするなど、習熟度にあわせた学習は効果があったと思われる。ただし、テスト期間中の「テスト勉強」の時間や冬季の短時間の「学びたいむ」実施など課題は残った。 </p>	
重点目標2	互いを尊重し高めあう集団の育成	3
主な方策 成果と課題	<p> 道徳・特活・総合的な学習の時間をはじめとして教育活動の様々な場面を通じて仲間づくりを進めた。体育祭・文化祭における学級を基盤としての活動や、修学旅行・自然教室等での学年全体での活動により、それぞれの学級・学年でのまとまりはしっかりとできてきた。また、学級・学年の枠を外した生徒同士の仲間づくりについては、人権学習や道徳の授業を通して、「人を思いやる心」の育成や「互いに高め合う仲間づくり」に取り組んだ。 </p> <p> 本校には、優しく思いやりがあり他者の辛さや苦しみを感じ、共有して同じ集団の中で過ごすことができる生徒が多いが、自分自身の感情をコントロールすることが苦手で、仲間と良好な関係を築くことが難しい生徒もいる。すべての生徒が「共に生きる」仲間として、互いに認め合い温かく接するとともに、時には厳しい言葉をかけながら、自らの集団をより良い集団として高めていくために、道徳・人権での学習活動や学校・学年行事における生徒を主体とした活動をさらに充実させる必要がある。 </p> <p> また今年度は、生徒会や部活動が中心となって地域の行事に積極的に参加した。スタッフの一員として参画することは、主体的に活動する意欲を高め、参加者の気持ちを思いやる良い学習の機会ととらえ、次年度以降も積極的に地域行事に関わっていきたい。 </p> <p> 今年度新たな取り組みとして、学校マスコットキャラクターを企画・公募した。「のぼり」をはじめ様々なキャラクターグッズを考案し、生徒会や学校行事などの活動・掲示物・配布プリント等で活用することで、多くの生徒や地域の目に留まる工夫をした。 </p>	

重点目標 3	健康（心身）の保持増進と体力の向上	2
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>個々の生徒の心の安定を図るために、毎学期の教育相談に加え担任や学年担当者及び養護教諭などが随時生徒との面談を行った。それぞれの生徒の持つ課題には様々な要因があり、担任や担当者だけでは抱えきれない事案については、スクールカウンセラーやハートサポートなどの専門家の協力も得ながら解決の方法を探った。継続的な見守りや相談体制が必要な事案については、専門家の助言・指導のもとそれぞれの課題に対して最も有効と思われる手立てを引き続き講じていく必要がある。また、生徒の心の変化により早く気づくことができるよう見守り体制の充実を図るとともに、生徒指導・特別支援教育について教職員の継続的な研修も必要である。</p> <p>本校の新体力テストの結果は過去6年間で最高の結果となっており、9種目中男子が5種目女子が6種目で全国及び県の平均値を上回っている。また、合計得点では、男子が全国平均と同レベル、女子は全国平均より4.5ポイント上回る結果となっている。このことは、保健体育科で毎時間実施している「西朝トレーニング」の成果が表れたことが大きいと思われる。また、保健だよりや保健室前の掲示物等による啓発活動により、生徒が健康・運動に興味を示して体力の向上に取り組んでいる成果ともいえる。部活動ガイドラインの制定により運動部の活動時間が短くなることで、部活動における体力向上が低調になる危惧はぬぐえないものの、保健体育科の授業改善や普段の学校生活における健康管理指導等の充実を図り、さらなる体力向上の取り組みを継続していきたい。</p>	

2 改善方針

1. 学力向上

本校の最大の課題ととらえ、「深い学び」を目指し「学びに向かう力」を高めるために、さらなる授業改善に加え到達度検査等により数値的な検証を行う。また、「自主学習ノート」及び「学びたいむ」は、より効果的な学習となるよう実施方法を検討した上で継続して取り組む。さらに学校生活の様々な場面で自分の取り組んだことや考えを発表する機会を設け、表現力の育成を図る。

2. 豊かな心の育成

道徳・人権教育の充実を努め、自他を思いやる心とコミュニケーション能力の育成を図る。また、地域とともにある学校をめざし、地域行事への積極的な参画を進める。学校マスコットキャラクターを活用して、「愛校心」の育成と共に、地域から愛される学校・生徒を目指し、心豊かな生徒の育成を図る。

3. 心身の健康の保持増進

生徒一人ひとりの心に寄り添う生徒指導を心がけ、生徒の持つ課題の早期発見に努め、必要に応じて関係機関と連携して解決のために最善の対応ができるようにする。また、保健体育の授業にとどまらず、学校生活の様々な場面で体力向上に向けての取り組みを行う。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 桜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <p>①自主学習ノートを毎日提出することで、家庭学習の定着を図った。 ②テスト期間中の補充学習における個別指導により、学習意欲の向上を図った。 ③帰りの会での継続的な短時間学習(シート学習)により、基礎学力の向上を図った。 ④「めあて・振り返り」を明確にした授業改善により、分かる授業の推進を図った。 (参考) 全国学力・学習状況調査(3年生)、NRT(1・2年生)とも、調査教科の平均正答率は全国平均以上。</p> <p>《課題》</p> <p>①「めあて」「振り返り」について、徹底しきれていない教科がある。 ②知識の活用に課題があり、受け身的な学習態度の生徒が多いことなどから、主体的で対話的な学習の定着をめざした研修を深める必要がある。 ③知識等を活用する力を育むため、問題解決的な授業改善を推進する必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <p>①3年間を見通した教育計画(学びのカレンダー)を策定し、生徒の発達段階に応じたキャリア教育・人権教育を展開した。 ②県の道徳教育推進事業を受け、学校全体で「考え、議論する」道徳の授業についての研修を深めた。 ③時節に応じた保健指導を行うとともに、健康管理に対する生徒の意識を高めるため、保健集会を実施した。 (参考)「自分には良いところがあると思うか(自己肯定感)」「将来の夢や目標を持っているか」「いじめはどんなことがあってもいけないと思うか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」というアンケートを1学期と3学期に実施し意識の変容を調査したところ、全学年とも3学期になると肯定回答割合が上昇していた。</p> <p>《課題》</p> <p>①本評価において「3 健康・体力の向上」については評価が下がった(3→2)の項目が3つあったこと、生徒・保護者アンケートにおいても健康・体力に関係の評価が他に比べて低かったこと。 ②全国体力調査において、本年度(2年生対象)は全国平均以下という結果であったこと。</p>	
重点目標 3	信頼される学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>《主な方策と成果》</p> <p>①各学期の教育相談、毎週の生徒理解と情報共有に関する委員会を実施するとともに、特別な支援の必要な生徒に対する合理的な配慮も行ってきた結果、いじめ等の早期発見・対応ができ、深刻な状況を回避することができた。 ②防災教室(1年生)や避難訓練(全校で每学期)を実施し、地区の防災行事にも参加(生徒の約20%)など、安全や災害に対する意識を高める取組を計画的に展開した。 (参考)不登校の発生割合は全国平均の半数(平成29年度)、不登校発生率は2%以下(本年度)である。</p> <p>《課題》</p> <p>①生徒理解をするための時間の確保のための創意工夫は、教師一人あたりの部活動の負担割合が高い本校にあってはかなり難しい状況になっている。</p>	

重点目標 4	家庭と地域等との連携	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>《主な方策と成果》</p> <p>①地域理解と地域貢献を柱としたコミュニティスクールの活動を、各学年にわたり積極的に展開した。その結果、地域・社会に対する生徒の関心を高めることができた。</p> <p>②ホームページや学校だよりによってコミュニティスクールを中心とする総合的な学習の時間の取組を伝えるとともに、本年度は土曜授業の際に各学年から取組を発表した。こうしたこともあって、保護者・地域から高い評価を得られた。</p> <p>(参考)</p> <p>①各学年の主なコミュニティスクールの活動</p> <p>1年生：老人会との交流</p> <p>2年：地域関係者とのトークセッション・地域中心の職場体験</p> <p>3年：地域の特色をPRした映像集の作成</p> <p>全体：フラワーオアシス事業への協力、桜地区防災フェスタへの参加</p> <p>②生徒に対し、「地域や社会で起きている問題や出来事に関心」「地域や社会をよくするために何をすべきか」というアンケートを活動の前後で取ったところ、活動後は肯定的な回答が10ポイント以上高くなり意識の高まりが確認できた。</p> <p>《課題》</p> <p>①学校の地域等と連携した活動の評価は高まっている反面、学校を参観する保護者は増加しているとは言えないこと。</p>	

2 改善方針

<p>本校の学校経営の改善にあたっては、以下のように3年間を見通し、諸活動を実践していく。</p> <p>(1) 平成29年度 新学習指導要領が平成29年3月に公示されたこともあり、本校の課題をしっかりと把握した上で、より分かりやすく実効性のある学校づくりビジョンを目指し改訂した。その際、グランドデザインを全教職員で手掛け、改善に向けての意識の改革を目指した。</p> <p>(2) 平成30年度 ビジョンの策定の過程で、本校の生徒の課題が校訓「自立」の育成の不十分さであることが明らかになった。これを受け、その育成のための取組を、コミュニティスクール・キャリア教育・人権教育などを中心にし、家庭や地域と連携した計画的な実践を目指した。</p> <p>(3) 平成31年度 これまでの学校経営にあっては校長主導であったが、本年度においては若手教員のリーダーシップに期待したい。その理由として、生徒の自立性の育成には、まず教師が主体的に活動する環境が必要であり、逆に校長のリーダーシップが強すぎると”やらされ感”が蔓延し教育活動が停滞気味になる可能性がある。</p> <p>そこで、本年度は資質のある若手教員に生徒指導・研修・生徒会を担わせて連携させ、その行動力を大いに発揮させたい。管理職は「手を放して目を離さない」をスタンスに、節目節目での助言はしつつ見守っていききたい。</p>

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 内部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな人間性と健康な心身の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ともに生きる力を高める仲間づくりに取り組みます。</p> <p>①コアタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実</p> <p>②Q-U調査を活用した学級づくり</p> <p>○キャリア教育の育成に努めます。</p> <p>①志講演・志授業による長期的な人生設計についての学習</p> <p>②身近な「生き方モデル」から学ぶ 「プロに聞く：企業人による講演」</p> <p>③職業観・勤労観、社会人としてのマナーを学ぶ「職業体験学習」</p> <p>④中学校3年時の進路選択を支援する。「学力補充」「高校体験講座」等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができた。学校全体の学習意欲が高まってきている。 ・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりを見出す指導を今後も継続していく。 <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒87% 保護者89%</p> <p>「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」→ 肯定的な回答 生徒90% 保護者88%</p>	
重点目標 2	確かな学力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○基礎基本の定着とわかる授業を目指します。</p> <p>①T-Tの効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援</p> <p>②電子黒板やプロジェクタを活用した授業の実施</p> <p>③全国学力・学習状況調査やNRT（到達度検査）の分析と活用</p> <p>④放課後、長期休業中、土曜日を活用した補充学習 等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」によって静かに一日が始まり、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 ・学力補充の機会を昨年度より多く設定した。利用する生徒も増加している。 ・生徒が主体的に学びあう授業をめざし、支援の視点での授業改革や問題解決能力の向上に向けて、授業研究をさらに進めていく。 <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒90% 保護者86%</p> <p>「学校は、「朝の読書」や「補充学習」等で充実した時間を過ごさせている。」</p> <p style="padding-left: 40px;">→ 肯定的な回答 生徒93% 保護者94%</p>	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○学校からの情報を発信します。</p> <p>①学校便りやHPによる情報発信</p> <p>②積極的な学校公開 等</p> <p>○地域との連携交流に努めます。</p> <p>①生徒の地域行事への積極的参加体制の構築</p> <p>②地域人材によるゲストティーチャーの活用 等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ HPによる配信、定期的な学校便りによる発信は、日々の学校の様子をタイムリーに知らせることができ、本校の目指す教育について多くの方に知ってもらっている。 ▪ PTA活動として、通学路危険箇所マップ、通学路防犯マップの更新ができた。 ▪ 体育祭、文化祭、人権フォーラムに多くの地域の方々に来校してもらった。 ▪ 内部川清掃、地区防災訓練、地区文化祭、あったか訪問等の地域行事に中学生が多数参加することで、地域の活性化につながっている。特に防災の面で、中学生が地域の力として期待されている。 <p>★学校自己評価</p> <p>「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」 → 肯定的な回答 保護者95%</p> <p>★学校関係者評価</p> <p>「生徒は地域行事へ参加していますか」 3.3 (4段階評価)</p> <p>「学校の様子は伝わっていますか(ホームページ等)」 3.2 (4段階評価)</p>	

2 改善方針

<p>1 豊かな人間性と健康な心身の育成</p> <p>本校はキャリア教育に関する特色のある取組（志講演、志授業、プロに聞く、高校体験授業等）を多く行っており、本校の教育の中に定着している。さらに、子どもたちのキャリア発達を促すという視点でこれらとともに日常的に行われている教育活動を関連付けて、生徒の発達段階に応じたキャリア教育の実践を継続していく。</p> <p>また、遠い将来を考えるキャリア教育から日々の生きる力を確かなものにしていくキャリア教育へのシフトをさらにすすめ、「将来のための今を考え、大切に作る生徒」を育成する体制をより整備していく。</p> <p>2 確かな学力の向上 ～基礎基本の定着とわかる授業～</p> <p>落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い中で、学力不振や自己肯定感が低いことなどが原因で不登校になる生徒が増えてきている。コアタイムなどの教育相談体制をさらに充実するとともに、課題の提示の仕方、学習形態、授業形態、教具等の工夫など支援の視点に立った授業づくりに取り組んでいく。</p> <p>また、「聞聴スタ」など「聴く」ことを重視した取組をさらに進め、それを「伝える」ことへの取組に結び付け、生徒同士、生徒と教師の対話を重視した「つながりあう授業」づくりにも取り組んでいく。</p> <p>3 地域とともにある学校づくり</p> <p>交通安全や防犯の観点から通学路点検作業など地域・保護者と一体となった取組とともに、命を大切にする安全教育をさらに進めていく。</p> <p>采女川清掃、地区防災訓練、あったか訪問など地域行事への積極的に参加するなど中学生が地域とともに活動する機会を増やし、地域とのつながりを意識して活動を進めていく。</p> <p>学校の様子や地域での様子をHP等で積極的に地域に発信し、学校の強み・弱みを理解していただき、学校教育を側面から支援していただける方や組織を増やしていく。内部の子は内部で暮らすみんなで育てる意識の浸透を図っていく。</p>
--

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 楠中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上・学び合い学習の実践	4
主な方策 成果と課題	<p>■研修委員会を中心に「授業の四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」等を作成し、授業・補充学習・家庭学習等の子どもの主体的な取組につなげることができた。さらに、生活リズムチェックシートを活用し、日々の生活面等の検証や改善に努めた。教科ごとに分析を行い、3学年共通の取り組みを確認し、授業実践に取り入れた。</p> <p>■新学習指導要領完全実施に向けて「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をめざした。授業における「めあて」と「ふりかえり活動」の充実。ペアやグループ学習・コの字隊形の活用。基礎学習の時間に復習を行い、スモールステップでわかる喜びを味わえる工夫。教員全員が年間1回の研究授業を行い、授業内容や生徒の様子について意見を交流しあった。その結果、昨年度より生徒たち同士が積極的に支え合い、学び合う姿が見られた。話し合いから学び合いのレベルに達するよう今後も研鑽を重ねたい。</p>	
重点目標 2	道徳および人権教育の充実・教育相談の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■年間計画に基づいて道徳・人権教育を計画的に前進させることができた。各学年で十分な議論をして教材開発に取り組んだ成果も大きい。年間を通じた道徳の提案授業（研究協議も含む）及び人権の交流学习等の実践の中では、出会い学習の機会を複数取り入れることができ「人それぞれ感じ方・考え方はちがう」という視野をもつことをねらいとした授業も意識的に重ねることができた。それぞれの考え方の高まりを、実生活で「仲間とつながっていく」という意識を持って行動できるように育成したい。コの字隊形を使い、個人→グループ→全体へのプレゼンという流れが定着し「考え議論する道徳」に近づけていきたい。評価についての研修も深めていく。</p> <p>■Q Uの研修を活用した教育相談を今年も進めることができた。担任だけにまかせず学年集団で生徒の分析を行う意義は大きい。また日々の「やりとり帳」を利用したり、あたたかい言葉かけ等、日頃からの関係づくりも大切である。スクールカウンセラーや関係機関とともに更なる研修をめざしたい。</p>	
重点目標 3	健康教育の推進・安全教育の徹底	3
主な方策 成果と課題	<p>■生徒会保健委員会を中心とした「保健集会」。各学級で生徒同士が行う「ミニ健康教室」を複数回実施。学校医からの助言をうけ養護教諭が学期ごとに全校生徒に向けての保健指導を実施。学校歯科医による歯磨き指導や学校薬剤師による薬物乱用防止教室、保健所の方の手洗い指導など学校3医や関係機関との連携も図った。計画的に健康教育を行うことで、健康に関する意識を啓発することができた。今後は個別の生活改善につなげていきたい。</p> <p>■防災ノートを夏休みの宿題にしたり、防災ノートを利用した集会を行うことができた。また図上訓練を行い、地域の危険箇所や災害時にどう身を守るかについて考えさせることで、日頃通っている所にも危険が潜むことに気付かせることができた。通常の避難訓練に加え保育園児を連れての避難訓練、避難訓練から数日たったの「ふりかえり集会」を行う等、新しい試みも交えながら、生徒の防災意識・危機管理能力を高めていきたい。</p>	

重点目標 4	キャリア教育の推進・家庭や地域との連携	4
主な方策 成果と課題	<p>■3年生だけでなく「学校だより」を通じてすべての保護者・生徒に進路情報を提供している。職業体験やようこそ先輩！（卒業生による進路ガイド）、ゲストティーチャーによるキャリア学習講演会や補充学習の講師など、地域と連携してのキャリア学習も実を結んでいる。</p> <p>■吉崎海岸の環境整美活動や、高齢者や園児などの異世代交流、朝のあいさつ運動、生徒の自主的なボランティア活動など、保護者・地域の皆さんが主体的に学校運営に参画し、本校の「学校づくりビジョン」実現にむけて尽力していただいている。生徒も積極的に地域にでかける風習もあり、双方向な連携を続けていきたい。本年度より「四日市市コミュニティスクール」の指定をうけ、軸となる学校運営協議会では、学校の教育活動や運営方針の状況について客観的な評価をいただくとともに、本校に対する様々な角度からの助言をいただいている。</p>	

重点目標 5	生徒指導の充実・特別支援教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>■生徒指導委員会を週1回開催。スクールカウンセラーも入り生徒の情報交換及び課題解決に向けての対策等を協議し、学習・生活規律を中心としたきめ細かな情報共有を図っている。特に複雑で多様な課題を持つ不登校生徒に対する指導・支援については、スクールカウンセラー・民生委員・市教委等と連携を図り、生活状況やその背景等、本人（保護者）の願いや思いを受け止めながら、チームとして取り組んでいる。3年生の不登校生徒については、希望する進路につながった生徒もいる。</p> <p>■特別支援教育の充実を図るため、特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援委員会をはじめ、生徒指導委員会や職員会議等で現状と対策を話し合い、一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援を組織的に行なっている。これらの取組により教職員と生徒や保護者の信頼関係が深まった。また、子どもの目線に立ち、個々の障壁を取り除くための合理的配慮等に向けての研修を学校体制で充実させていきたい。</p>	

2 改善方針

<p>■どのような指導も単発で終わることのないようにする。点と点を結びひとつのラインをつくることによって、その行先が生徒の成長につながるように教育活動を仕組んでいく。また充実した期間が続くとマンネリ化につながる。常に新しい視点を準備し、ことあるごとに「ふりかえり活動」を大切にしていきたい。それが学校行事ならば、行事終了後すぐに来年度のプランや重点目標を考え、1年後に備え準備しておくことが大切である。</p> <p>■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学び合いを中心とした授業構築が前進していると感じる。見通しをもった丁寧な計画の立案と、確かな情報共有が重要になってくる。教職員集団が同じ方向を向いて、同じ歩調で歩めば自ずと結果がついてくる。</p> <p>■校務多忙化のせいか、学年をこえた交流の場がもっと増やしたいとの声があがっている。他の学年にも積極的に関わっていききたい。</p> <p>■早期共有、複数対応を大切にして、あたたかい評価メッセージを発信していきたい。今後も生徒から生徒への指導や、自治活動について研修や実践を深めていく必要がある。</p>
